

平成30年度学校評価自己評価報告

学校名「京丹後市立峰山小学校」

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
社会の中で自立し、多様な人々と協働し、個性や創造的につきながらよく創造的に生きることができる力を育てる。		<ul style="list-style-type: none"> ○思考力・表現力等を伸ばす指導が教育課程全体を通じて進み、基礎基本の学力、児童の學習意欲や主体的な学習態度、家庭学習習慣などが向上した。 ○児童の自己肯定感が高まり、問題事象や不登校（傾向）の減少・解消が進んだ。 △不適応の未然防止と児童・家庭支援を基盤に、個々の児童の実態・特性に配慮しつつ、学び合いを基本とした授業・取組を一層充実する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 教科横断的・汎用的能力・資質を育てるための「主体的・対話的に学び合う授業づくり」をすべての学級で一層進める。 2 自己存在感を高め、よりよい生き方を考えさせるため、生徒指導の機能を生かした主体的・協働的な授業・特別活動等により児童の豊かなかかわりをつく る。 3 すべての児童が学校・学級とつながり、安心して学びに向かうためのチーム支援を進めること。
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容を確実に定着させるとともに、學習意欲を高め、課題を主体的・協働的に解決するための思考力・判断力・表現力等、学びを人生や社会に活かそとする人間性等を一層伸ばす授業づくりを進めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○峰山学園の取組とりんくさせ、1時間の授業に、聴き合う、話し合う、教え合う要素を取り入れる。 ○授業の中で、よりよい生き方・在り方、真理や価値を考えさせる指導を行う。 ○汎用的な能力・資質を育てるための目標と評価を明確にし、目標・指導・評価を一体として単元設計を行う。 ○学び方と認識の仕方（わかり方）を指導し、学ぶ力とわかる力を育てる指導を進める。 ○授業や家庭学習に特に集中して取り組む期間を各学期に約3～4週間、年間で約3ヵ月間設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童アンケート（2月）では、勉強の時間が来るのが楽しい88%、相談したり話したりすると学習がよくわかる96%、授業は分かりやすい96%となつた。 ○宿題を忘れずにできる児童は96%（同アンケート）、高学年ではほぼ全ての児童が1週間単位で自主的に学習計画を立ててやりきれるようになつた。 △新学習指導要領で求められる学力の課題を一層明確にして、授業改善を学力向上に結び付ける。 ○児童アンケート（2月）では、問題を話合いで解決している91%、人のために自分の力を使っている91%、学校へ行くのが楽しい94%と好結果が得られた。 ○特別活動では、児童自らが問題を解決する主体的な取組過程を組み込み、児童の人間関係が深まるとともに、弱い立場の友達を大切にしようとする児童が増えた。 ○行政、医療、福祉、事業所、大学等の多くの関係機関との連携が強化でき、組織的な児童支援による不適応の未然防止やいじめの早期解決に結び付いた。 △授業づくりと一体化し、聞き合・伝え合・会話・学び合う活動を一層進める。
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	一人一人の児童の状況を的確に把握し、主体的で協働的な授業や特別活動等を通して、学校不適応やいじめの未然防止にもつながる自己肯定感、自己存在感や共感的人間関係を醸成する。	<ul style="list-style-type: none"> ○話合いを重視し、「子どもが子どもから学ぶ」ための指導を進めること。 ○自分たちで決めてやつてみて、振り返ることにより、児童が「自ら気付く」ための指導を進める。 ○相手の立場に立つて考えることから人権認識、自己存在感を育て、いじめ等を防止する指導を進める。 ○周りの人々や地域のため自分の方と時間を使おうとする態度を育てる指導を進める。 ○スクールカウンセラーや相談機関・関係機関等との連携を一層深め、組織的な教育相談や児童支援を充実する。 	

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しく体を動かす習慣を身に付けさせながら体力・運動能力の向上を図るとともに、早寝早起きなど基本的な生活習慣を確立する。 ○安心・安全に関する必要な事項を理解させ、安全に気を付けて生活する態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的・対話的に学び合う授業づくりと関連させた保健指導等を進める。 ○取組期間を設けて、朝マラソン、鉄棒、縄跳びなどの体力づくりに取り組む。 ○家庭との連携を図りながら、特に早寝早起きができるようにするための点検活動を行い、生活を改善する取組を強める。 ○学校内外の安全に関する指導を強化するとともに、PTAや地域の安全ボランティア組織等と連携して、特に登下校の安全確保と事故防止に努める。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ○将来の社会参加に向けた豊かな自立を支援するという立場に立ち、児童一人一人のニーズを把握し、すべての児童が安心して学びに向かえるためのチームによる支援を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○不適応を予測し、特別支援教育や困難の改善の視点から、教育活動や環境を事前に改善する取組を進める。 ○弱い立場、困っている児童の心に寄り添い理解するところから指導を始める。 ○どの児童も見通しをもった学習や生活ができる、学びやすい環境を工夫する。 ○保護者と目標を共有して支援を進めるため、保護者と定期的に懇談し、合意形成を図りながら取組を進める。 ○実践を通して具体的な支援を積み上げ、個別の教育支援計画や指導計画を充実させて、合理的配慮の基礎とする。
研修（質質向上の取組）	<ul style="list-style-type: none"> ○授業研究等の実践的な校内研修を充実させ、指導力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○峰山学園の学習指導、生徒指導、特別支援教育等の取組と連動させて校内研修を行う。 ○校内研修の中心を授業研究とし、授業の中での子どもたちの姿を通して学び合う。指導案のない普段の授業から互いに学び合う。
次年度に向けた改善の方向性	1 授業研究を日常的に実施し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を一層進めることで確かな学力を向上させる。 2 授業・特別活動・生徒指導を一體的に捉え、聞き合う・伝え合う・話し合う・話すことに対する活動を教育課程全体でマネジメントして取り組む。 3 SNS、ゲーム等による生活習慣の乱れや安全上の問題に対し、効果的な教育や啓発を進める。 4 児童に対する細かな気付きをタイムリーに共有し、指導や環境調整につなげるとともに、児童に関する情報が途切れないとともに、児童に対する細かな気付きを一層強める。	

平成30年度学校評価自評報告

学校名「京丹後市立いさなご小学校」

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
峰山学園の教育目標である「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」を目指して教育活動を展開する。	△ 峰山学園小中一貫教育により本校の教育活動を充実させ、京都府小学校教育研究会研究協力校として、算数科の研究を進めていく。	○ 学校再配置2年目、児童は落ち着いた状況で過ごし、充実した教育活動が推進できた。 △ 自分の思いや考え方を言葉で表現する力を高めるこことや家庭学習・読書など保護者との連携を深め、充実させることを大切にして学力の向上を図る必要がある。	1 意欲を持つて自ら学ぶ子どもも思いやりのある子どもも進んで心と体を鍛える子どもも「自己肯定感」を具現化する達成目標及び指導内容を明らかにして指導を進める。	1 目指す子どもも像	1 目指す子どもも像
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)	2 2 3	2 3 「自己肯定感」を具現化する達成目標及び指導内容を明らかにして指導を進める。
教育課程 学習指導	1 わかりやすい授業を計画的に進めること。 2 家庭学習や個に応じた指導を充実させ、基礎学力の定着と確かな学力の進展を図る。 3 知識・技能を用いて活用する力を育成する授業づくりを進めよう。	1 算数を研究の柱とし、規律があり、ねらいが明確で児童がわかる授業を研究授業等によって教員が学び合う。 2 発達年齢に応じた家庭学習の指導を進め、個に応じた指導を充実させる。 3 身に付けた知識・技能を用いて考える、言葉で表現する力を育成し、振り返りなどを通して学習意欲を高める指導を行う。	○児童はおおむね規律あり、落ち着いた状況で学習、行事等に取り組むことができた。 ○学習内容の基礎基本の理解及び習熟の時間、家庭学習により定着を図ることがおおむねできた。また、算数科の研究に深い学びの授業に対話など言葉で表現する場面を設定することができた。 △峰山学園の家庭学習の習慣化を図る取組において、自らが開始する時刻、内容、時間を決めて行つた。この取組で積極的に取り組む児童が増えた。	1 2 3	1 2 3 ○児童はおおむね規律あり、落ち着いた状況で学習、行事等に取り組むことができた。 ○学習内容の基礎基本の理解及び習熟の時間、家庭学習により定着を図ることがおおむねできなかった。また、算数科の研究に深い学びの授業に対話など言葉で表現する場面を設定することができた。 △峰山学園の家庭学習の習慣化を図る取組において、自らが開始する時刻、内容、時間を決めて行つた。この取組で積極的に取り組む児童が増えた。
生徒指導	1 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。 2 規範意識を身に付けさせ、いじめを許さない心を育て、行動できるようににする。また、発達段階に応じた仲間意識を育成する指導を進める。 3 良さを認め合う活動を積極的に取り入れ、児童の自己肯定感を高める。	1 特別支援教育部、教育相談部を中心とした支援を必要とする児童を的確に把握し、連携した指導を進める。 2 全教育活動を通して道徳教育・人権教育の推進、規範意識の醸成によりいじめの防止を行う。また、「他への思いやり」についての指導を重視する。 3 教師が児童の良さをまた児童同士がお互いの良さを通じて、多様な異年齢集団での活動の中で計画的に伝えることで、自己肯定感を高め、明るく積極的な態度を促進させる。	○支援が必要と考えられる児童についての状況を全教員で共通理解を図ることができた。その上に、組織的に支援をすることができた。 ○生徒指導の基本に、規範意識の高揚と他を思いやる心を位置付けて指導を積み上げてきた。また、児童会は、「絆」「笑顔」などをキーワードにして取組を行い、規範意識の向上、思いやりの心の育成に役割を果たした。 △いろいろな場面で、児童に言葉で表現することを大切にして指導を積み上げてきた。今後さらに、指導者自身が児童の思いを聞くこと、児童が言葉で表現するまで待つのなどの指導の充実を図る。	1 2 3	1 2 3 ○支援が必要と考えられる児童についての状況を全教員で共通理解を図ることができた。その上に、組織的に支援をすることができた。 ○生徒指導の基本に、規範意識の高揚と他を思いやる心を位置付けて指導を積み上げてきた。また、児童会は、「絆」「笑顔」などをキーワードにして取組を行い、規範意識の向上、思いやりの心の育成に役割を果たした。 △いろいろな場面で、児童に言葉で表現することを大切にして指導を積み上げてきた。今後さらに、指導者自身が児童の思いを聞くこと、児童が言葉で表現するまで待つのなどの指導の充実を図る。

健康（体育）・安全	1 全校的な体力にかかる取組の充実と積極的な児童への指導、保護者への啓発により、学校を休まない強い体を作る。 2 困難なことにもねばり強く挑戦していこうとする態度を育成する。	1 体育部、健康安全部等が中心となり、期間を決め、集中的に朝マラソンや朝縄跳び等の取組を行い、体育の授業と運動することと、計画的でタイムリーナー児童への指導、保護者への啓発により、体力(特に持久力)向上と粘り強く頑張ろうとする意欲を高める。 2 学級、学校での取組において個々のめざす目標を発達段階に応じて明確にし、特に「自分自身に関することにについての指導を重視することで、ねばり強く挑戦する態度を高める。	○体育の授業、また、朝マラソンなど、期間を決めて行うことができた。児童も一生懸命に取り組むことができた。 ○当番活動、係活動、委員会活動など日常の活動を大切にして指導を行ってきた。発達年齢に応じて、粘り強く取り組む姿勢が見られた。
	開かれた学校づくり	1 丁寧で分かりやすい双方の情報発信による積極的な学校公開を進める。 2 信頼される学校経営を行いPTA、地域の関係機関、子ども園・中学校等との取組により連携を進める。	1 学校だよりや学級通信、HP等で学校の様子や肯定的評価を分かりやすく発信したり、保護者等の意見も紹介したりして、双方向の発信を意識するとともに、積極的な学校公開を進める。 2 無理のないPTA活動を通して積極的な連携を進めるとともに、地域と一体となつた取組を計画的に実施する。 3 学校として目指す授業、学校行事等に対する保護者、地域の方々の意見、思いをくみ取り、改善に役立てる。
研修（資質向上）		1 職員の指導力向上に向けた研修を行い積極的に進める。 2 個に応じた指導の推進と指導法について研修を進める。 3 峰山学園が目指す10年間の連続した学びと育成を目指した研修を進める。	○京都府小学校教育研究会算数科教育研究協力校として、算数科における深い学びの指導のあり方について研究を進めることができた。 ○資質向上を目指して、峰山学園の研修会、本校の研修会を行うことができ、学力向上を目指した取組を行なうことができた。
次年度に向けた改善の方向性			本年度、規範意識の向上、思いやりの心の育成を指導の基礎にして、「深い学び」を目指す指導の在り方にについて、京都府小学校教育研究会算数科教育の研究発表を行った。今後さらに新学習指導要領で目指す学力に研究を深めていく必要がある。そのためにも、指導と評価の一体化を進める。 その上に、「ことばの力の育成」をすべての教育活動に位置付け、教育を進める。また、学力向上については、家庭学習を自らの計画に沿って行い、その定着、習慣化を図る。

平成30年度学校評価自己評報告

学校名 [京丹後市立しんざん小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)	成 果 と 課 題 (自己評価)	
1 教育課程 【児童・生徒】 2 「峰山学園卒業時の子どもたちの姿」に全教職員 が責任を持つ学校 3 保護者・地域に信頼される学校 【保護者・地域】	1 児童実態を的確に把握し、指導方法や授業改善の工夫を行い、学力の向上を図る。 2 「主体的・対話的で深い学び」を追求するためには、豊かな人間関係のもとで、自ら学び続けようとする意欲と態度を醸成する。	1 学力診断テストや学力学習状況調査等の結果分析に基づき、学習意欲の向上、基礎学力の定着を図るための授業改善に取り組む。 2 授業づくりと学級づくりを連動させ、安心して学べる学級環境の中で児童の思考力・判断力・コミュニケーション能力を育む。 3 国語科を重点研究として教師の指導力向上に組織的に取り組む。 4 授業規律と規範意識の醸成を運動させ、児童の主体的に学ぶ意欲を育む。	○生徒指導の3機能を生かした組織的な取組を推進することによって、「峰山学園卒業時の子どもたちの姿」に「やさしさ」「安心感」「信頼感」が生まれた。 △「峰山学園卒業時の子どもたちの姿」に「やさしさ」「安心感」「信頼感」が生まれた。 △「峰山学園卒業時の子どもたちの姿」に「やさしさ」「安心感」「信頼感」が生まれた。 △「峰山学園卒業時の子どもたちの姿」に「やさしさ」「安心感」「信頼感」が生まれた。 △「峰山学園卒業時の子どもたちの姿」に「やさしさ」「安心感」「信頼感」が生まれた。	1 新生「しんざん小学校」の開校を契機に、児童・保護者・地域にとって「安心・信頼」できる学校づくりを進めます。 2 生徒指導の3機能を生かした授業を進め、児童に確かな学力を育成する。 3 コミュニケーション能力を育成する。 4 学園評価・学校評価の結果に基づく教育実践の改善を図り、学校経営を充実させます。	○「新たなことに挑戦! 子ども達の笑顔と希望が輝く学校」 ○「峰山学園卒業時の子どもたちの姿」に「やさしさ」「安心感」「信頼感」が生まれた。 △「峰山学園卒業時の子どもたちの姿」に「やさしさ」「安心感」「信頼感」が生まれた。 △「峰山学園卒業時の子どもたちの姿」に「やさしさ」「安心感」「信頼感」が生まれた。 △「峰山学園卒業時の子どもたちの姿」に「やさしさ」「安心感」「信頼感」が生まれた。
本市の中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	1 教育活動全体の中で生徒指導の3機能を行き渡らせ、児童の個性の伸長と社会的資質・能力・態度の育成が図り誰とも豊かな人間関係を築く。 2 いじめ事象、不登校傾向児童、問題事象等の早期発見・未然防止に努める。	1 常に「当たり前」のことを意識させることで規範意識の醸成を図り「目的ある行動」が主体的にとれる児童を育む。 2 誰とでも繋がり合える豊かな人間性を育むために道徳教育、人権教育、特別支援教育の視点を大事にした取組会の取組等を活用) 3 気になつた事象に関して素早く「報告・連絡・相談」ができる職員の関係と職場の雰囲気を醸成する。	○「当たり前」のことが当たり前にできる」規範意識を醸成するため、あらゆる機会に社会的なルールやマナーを意識させた。「思いやり」をキーワードとしながら学校のルールも丁寧に確認しながら定着を図った。 ○いじめの未然防止や気になる事象について、早めの対応を心掛けた。教職員間での「連絡・報告・相談」を行つた。 △廊下歩行、トイレのスリッパ掃除等、相手を意識した行動にはまだ課題が残る。	1 新生「しんざん小学校」の開校を契機に、児童・保護者・地域にとって「安心・信頼」できる学校づくりを進めます。 2 生徒指導の3機能を生かした授業を進め、児童に確かな学力を育成する。 3 コミュニケーション能力を育成する。 4 学園評価・学校評価の結果に基づく教育実践の改善を図り、学校経営を充実させます。	○「当たり前」のことが当たり前にできる」規範意識を醸成するため、あらゆる機会に社会的なルールやマナーを意識させた。「思いやり」をキーワードとしながら学校のルールも丁寧に確認しながら定着を図つた。 ○いじめの未然防止や気になる事象について、早めの対応を心掛けた。教職員間での「連絡・報告・相談」を行つた。 △廊下歩行、トイレのスリッパ掃除等、相手を意識した行動にはまだ課題が残る。

健康（体育）・安全	1 保護者・地域と連携し見守り活動を充実させる。 2 定期的な通学班会を設定し児童の登下校中の安全に対する自覚を高める。	1 安心安全な登下校を目指し地域・保護者の協力が多く得られ、除雪対応も整った。大過なく通学できた。 ○ SNSをはじめとする情報機器・ゲーム機の使用に関する習慣に及ぼす影響などを提起し、「我が家ルール」を策定した。親子で時間の使い方を意識することを始めた。
	2 楽しく体を動かす習慣を身に付けさせ、体育・スポーツ活動に基づく能力や態度を育成する。	○朝マラソン、朝縄跳び等を通して基礎体力の向上と苦手なことにも取り組む粘り強さが出てきた。
特別支援教育	3 家庭との連携を図り、基本的生活習慣を確立する。	△個別な支援が必要な児童に対しての対応を組織的に検討し取組を進めることで、児童・保護者の安定した相談活動を行うことができた。
	4 「生き生き頑張り週間」を設定し生活習慣を確立する。	○特別支援充実加配を活用し、取り出し指導等を行うことで児童の安定を生み出し、学力の定着に繋がった。
研修（資質向上の取組）	1 障害への理解を深め、好みの人間関係を築く。 2 ユニバーサルデザインを意識した授業、教育活動を展開し、誰もが学びやすい環境を築く。	△ユニバーサルデザインを意識した授業の普及はまだ十分とは言えない。今後も、全ての学級で誰もが学びやすい環境を意識していく必要がある。
	3 家庭との連携を丁寧に図り、個別支援のあり方を共有する。	○国語科を中心として、説明文の読み取りから学び方を身に付け、各教科に波及できる力の育成を目指した。児童の主体的に学びに向かう姿勢を育むことができた。
次年度に向けた改善性方向	1 保育者・地域と連携し見守り活動を充実させる。 2 楽しく体を動かす習慣を身に付けさせ、体育・スポーツ活動に基づく能力や態度を育成する。	○グループ研を中心に若手がペテランから指導法を学ぶことができることができた。 ○若手教員、講師を対象に毎週金曜日に研修を行い、学級経営、授業作りの力量アップを図った。
	3 心と体の教育、薬物乱用教室、非行防止教室に取り組む。	△授業改善と共に、家庭学習頑張り週間、校内漢字検定等の取組を全校的にを行い、学力向上を目指した。全校の士気が高まってきたが、定着には課題が残つた。学力向上を図る組織的な取組を更に推進していく必要がある。
次年度に向けた改善性方向	4 「生き生き頑張り週間」を設定し生活習慣を確立する。	○各学年で作成する単元総括テストを校内でも検討する。 ○ゴールから単元全体を見通した指導のあり方を探すことで重点教科の国語科にも応用させていく。
	5 教科指導力、生徒指導力の向上、課題対応力の向上を在り方を共有した上で教育効果が表れる支援を行う。	○目標ず校内研修会を設定する。 ○講師を含む若手がペテランから指導についての重要な個所やポイント等について質問したり考え合ったりできる機会を設定し、共に学び合う雰囲気と機会を作る。
研修（資質向上の取組）	1 小中一貫教育「峰山学園」の取組を授業改善の手法として活かし、教職員の授業力アップを図る。	○学力充実部を中心に行けた取組として設定し取り組む。
	2 重点教科を「国語科」として活性化せたり学年会を設定したりすることで教職員の指導力の向上を図る。	○学力充実部を中心に行けた取組として設定し取り組む。

平成30年度学校評価自己評価報告書

学校経営方針(中期経営目標)

「峰山学園」の経営方針を踏まえ、教育活動全般を通して「自己肯定感を持ち自分自身の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」に努める。

- ・意欲を持つて自ら学ぶ子ども
- ・思いやりのある子ども
- ・進んで心と体を鍛える子ども

（目指す子ども像）

- 不登校や生徒指導に関する大きな課題はなく、児童は一定安定した学校生活を送ることができた。
- どの学級も安定した学級経営ができ、全校登校できた日が118日を記録した。また、充実した児童会活動もできだ。
- △コミュニケーション能力や表現力の弱さからくる望ましい人間関係づくりに課題がある児童の割合が高い。
- △学力の二極化が顕著で、基礎的・基本的な学習内容の定着を図るための組織的・計画的取組の充実が必要である。
- △全教職員が主体的・協働的に研究活動に取り組めたが、教職員の指導力・授業力の向上は課題である。

前年度の成果と課題

- 「峰山学園」の経営方針を踏まえ、教育活動全般を通して「自己肯定感を持ち自分自身の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」に努める。
- △コミュニケーション能力や表現力の弱さからくる望ましい人間関係づくりに課題がある児童の割合が高い。
- △学力の二極化が顕著で、基礎的・基本的な学習内容の定着を図るための組織的・計画的取組の充実が必要である。
- △全教職員が主体的・協働的に研究活動に取り組めたが、教職員の指導力・授業力の向上は課題である。

学校名 [京丹後市立長岡小学校]

評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
			前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
教育課程指導 学習	<ul style="list-style-type: none"> ○確かな学力の育成 (1) 自己肯定感を高め、わかる・できる授業の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 確かな学力の育成 (1) 自己肯定感を高め、「わかる」「できる」の授業推進 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の3機能を意識した授業づくりを進め、児童に「わかる・できる」を実感させ自己肯定感を高める。 ・外部講師、関係諸機関を活用した工夫した研修を進め授業力を高めることで、児童の学ぶ意欲を育てる。 ・幼小連携・小中連携の在り方を工夫し、10年間を見通した指導を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○不登校や生徒指導として取り組んだ昨年度の研究を基にユニバーサルデザインの視点を活かし、児童の主体的・対話的で深い学びを充実させ学力向上を図る。 △コミュニケーション能力・コミュニケーション機能の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の三つの機能を活かした居心地のよい学級づくりの推進、対話的で深い学びにつながる授業づくりによる、授業力・指導力・指導力の向上 ・工夫ある研修による、授業づくりの充実 ・研究を通じた小中一貫教育の充実 ・家庭や地域と協働する信頼される学校づくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○学力向上システム開発校として取り組んだ昨年度の研究を基にユニバーサルデザインの視点を活かし、児童の主体的・対話的で深い学びを充実させ学力向上を図る。 △コミュニケーション能力・コミュニケーション機能の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の三つの機能を活かした居心地のよい学級づくりの推進、対話的で深い学びにつながる授業づくりによる、授業力・指導力・指導力の向上 ・工夫ある研修による、授業づくりの充実 ・研究を通じた小中一貫教育の充実 ・家庭や地域と協働する信頼される学校づくりの推進

生徒指導	(1) いじめの根絶を目指して安心して自己表現できる居心地のよい学級・学校づくり	(1) いじめなく居心地のよい学級づくり・学校づくり ・機能する校内体制を確立し、いじめ・問題事象・不登校の未然防止、早期対応・早期解決に努める。 ・課題に合った研修を設定し指導力の向上を図る。 ・豊かな体験活動や読書活動を通じて道徳的実践力の育成と児童・教職員、児童相互の協働的活動を通じ、温かい人間関係の構築を図る (2) 自己肯定感を高める生徒指導の取組	(1) 児童の状況について常に全体で共通理解を図り、課題に感じた事象には直ぐに教育相談部会を持ち対応した。 ○様々な学校行事や児童会行事に教職員が協働して取り組む中で、児童と教職員や児童同士の温かな関係づくり、安定した学級づくりを進めることができた。 △学級により自己肯定感の高まりは違う。その原因をしつかり理解し、対応を図る必要がある。(高学年には自己肯定感が低い状況が見られる。)
	健康（体育）・安全	(1) 健やかなく生み、たくましく生きる力の育成 (2) 危機管理の充実と安心・安全な学校作り、環境の整備	(1) たくましく生きる力の育成 ・目標を明確にした継続的な体力づくりの取組を進めます。 ・小中連携加配との連携による運動能力の向上を図る。 ・命や体・健康に関する知識と実践的態度を育成する。 (2) 安心・安全な学校づくり ・教職員の危機管理意識の向上を図る研修を充実する。 ・安全点検や避難訓練の実施と地域と連携した安全体制・防犯体制を充実する。
特別支援教育	(1)児童の特性を踏まえて、合理的な配慮の観点に基づいた必要な指導・支援の推進	(1) 日々の丁寧な相談活動を基にしたアセスメント票、児童実態にあつた個別の指導計画・支援計画を作成し、その有効活用を図る。 (2) 子どもの教育的ニーズに応じた校内委員会を組織し、指導の充実を図る。 (3) 幼小連携・小中連携を進め、エニバーサルデザインを意識した多様な学習形態を導入し授業づくりを充実する。 (4) 支援を要する児童理解、指導・支援の在り方について研修会を実施し、特別支援教育を充実する。	(1) 特別支援コーディネータを中心に、児童支援のあり方について検討し、家庭との共通理解を図ることができるよう取組を進めた。 ○研究に取り組む中で、エニバーサルデザインを意識した授業づくりについて学び、充実を図ることができた。 △学校の方針を保護者に正確に理解してもらうことができない家庭もあり、家庭との連携の在り方を今後も模索し、児童のよりよい支援につなげたい。 △来年度入級児童への対応を検討する。
	研修（資質向上の取組）	(1)学力向上システム開発校としての研究成果を活かして、児童の学力向上を図る。 (2) SNSの利用の仕方等を家庭と連携を取り組むことで、児童の生活習慣の確立と安心・安全な生活を守る。 (3) 安心して学べる学級づくりや地域と連携を図った体験活動、学校行事・学校会行事を充実することで、児童の自己肯定感を高める。 (4) 来年度入学し入級予定の児童への理解教育等を進めると共に、児童の発達に応じた指導を工夫・充実する。	(1) 1年次の研究課題を踏まえ、重点取組課題を共有すること で、全教職員が協働して学び研究する意欲を高める。 (2) 外部講師等を活用した授業研究会等を通して、授業づくり・学級づくりを充実させることで指導力の向上を図る。 (3) 研究発表会を実施することで、研究成果を他校に波及する。

次年度に向けた改善的方向性

(1) 学力向上システム開発校としての研究成果を活かして、児童の学力向上を図る。
(2) SNSの利用の仕方等を家庭と連携を取り組むことで、児童の生活習慣の確立と安心・安全な生活を守る。
(3) 安心して学べる学級づくりや地域と連携を図った体験活動、学校行事・学校会行事を充実することで、児童の自己肯定感を高める。
(4) 来年度入学し入級予定の児童への理解教育等を進めると共に、児童の発達に応じた指導を工夫・充実する。

平成30年度学校評価報告

学校名 [京丹後市立大宮第一小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成 果 と 課 題 (自己評価)	
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	<p>1 意欲的に学び、チャレンジする子どもの育成 2 自他を大切にし、思いやりのある子どもの育成 3 心身を鍛え、活動的な子どもの育成 4 組織的・効率的・機能的な学校経営による信頼される学校づくりの推進 5 大宮学園経営計画に基づく小中一貫教育の充実化</p>	<p>△組織的・効率的・機能的な学校経営による信頼される学校づくりの推進</p> <p>△大宮学園経営の充実を図るため、校内組織推進の強化</p>	<p>○組織的授業研究による授業改善、全校体制による早期回復指導、家庭連携の充実による基盤学力を向上させることができた。 ○学校運営システムを機能させ、組織的に学校教育活動を充実させることができる。 △課題特性に応じ、個別な児童支援、子育て支援を充実させ、不登校課題の改善・解消を図る。</p>	<p>○「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成 ○課題解決力、表現力、人間関係を結ぶ力の育成 ○主体的・対話的で深い学びによる基礎学力の向上 ○教科指導力・生徒指導力・対応力・連携力の向上 ○突発事象対応・不登校解消を図る指導力・組織力の向上 ○懇談、家庭・地域との連携強化による家庭教育支援の充実化 ○大宮学園教育活動の充実を図るための校内組織推進の強化</p>	<p>○全教育活動で思考力・言語力の向上を図ることができた。 ○各基礎学力診断テスト結果分析を踏まえ、授業改善、全校体制による早期の回復指導に取り組み、基礎学力の定着を図ることができた。 ○算数科を中心、「主目的・対話的で深い学び」を育むための授業改善の取組を図ることができる。 ○少人数指導等、指導法の工夫・改善により個に応じたきめ細かい指導を充実させ基礎学力の向上を図ることができた。 ○全校体制による放課後回復指導の充実を図ることができた。 ○年間を通して学習指導部の提起により、家庭と連携して家庭学習習慣を形成する。 ○定期評価、单元末評価等、計画的な効果測定により、個に応じた即時回復指導、早期回復指導の工夫・徹底を図る。 ○家庭との連携による「家庭学習のやくそく」の活用や、生活習慣確立の取組を通じて家庭学習習慣の定着を図る。 ○大宮学園合同研修により、自己肯定感を高め、基礎学力の向上を実現するための授業づくりを充実させることができる。 ○新学習指導要領実施・移行に対応すべきカリキュラムマネジメント、組織的研修の充実を図る。</p> <p>○生徒指導部会、いじめ対策委員会、教育相談部会のセンター機能を強化し、問題行動事象対応、いじめ・不登校未然防止、規範意識の高揚を目指した指導の充実を図る。 ○支援会議により、個別な支援が必要な児童の支援方策を検討し、組織的支援により、不登校・集団不適応の解消を図る。 ○全教育活動を通して人権教育を推進し、自分や友達を大切にできる道徳科や全ての教育活動を通じて人権教育を推進し、社会体験活動の充実を図る。 ○課題解決力を育成するため児童の自己決定場面の充実を図る。 ○学級経営力の向上を図る。(学習集団の育成・自治的活動充実) ・家庭教育支援、心の教育の充実、問題行動事象解消に向け、家庭支援・地域との連携の強化を図る。 ・大宮学園引き継ぎシートの活用による保幼小中の連携強化、大宮学園合同研修を充実させ、不登校の解消を図る。</p>
					<p>○「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成 ○課題解決力、表現力、人間関係を結ぶ力の育成 ○主体的・対話的で深い学びによる基礎学力の向上 ○教科指導力・生徒指導力・対応力・連携力の向上 ○突発事象対応・不登校解消を図る指導力・組織力の向上 ○懇談、家庭・地域との連携強化による家庭教育支援の充実化 ○大宮学園教育活動の充実を図るための校内組織推進の強化</p> <p>○算数科を中心、「主目的・対話的で深い学び」を育むための授業改善の取組を図ることができる。 ○少人数指導等、指導法の工夫・改善により個に応じたきめ細かい指導を充実させ基礎学力の向上を図ることができる。 ○全校体制による放課後回復指導の充実を図ることにより、新学習指導要領実施に向けた研修の充実を図ることができる。 ○総則、外國語、道徳を中心的に、新学習指導要領実施に向けた研修の充実を図ることができる。 △大宮学園授業研究により、「主体的・対話的で深い学び」を育む授業づくりを充実させる。</p> <p>○生徒指導部・教育相談部・支援会議等のセンター機能が発揮され、問題行動事象、不登校、個別支援課題等の児童課題について組織的改善を図ることができる。 ○年間を通して多様な異年齢活動・体験活動を通じ自己決定場面を工夫し、豊かな人間関係の育成を図ることができる。 ○全教育活動を通じて人権教育を推進し、自分や友達を大切にできる道徳、人権学習、学級経営の充実により、自他を尊重する児童の育成を図ることができる。</p> <p>○学級経営評価を基にした実践研修により、学級経営力を高め、豊かな人間関係の育成を図ることができる。</p> <p>○大宮学園引き継ぎシートの活用、学園教育支援部会、校内支援会議の充実により、個別な不登校解消に向けた組織的な取組の充実を図ることができる。</p> <p>△支援会議・家庭教育支援を充実させ、不登校を解消させる。</p>

<p>健康（体育・安全）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科体育、遊び、体力づくりを通して、楽しく体を動かす習慣を身に付けてながら、体力・運動能力を向上させる。 ○安心・安全な生活を営むための危機管理力・危機対応力を育成する。 ○健康な心と体に成長するため、たくましく生きる実践力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科体育の充実、日常的な活発な遊び、継続的な朝マラソン・朝歩きなどの取組を充実させ、基礎体力の向上を図る。 ・年間を通して、計画的に食育・保健指導の充実を図る。 ・安心・安全な学校生活が送れるよう、教職員の日常的な危機管理意識・対応能力の向上、施設点検・安全管理の徹底を図ることとともに、実践的な避難訓練の充実を図る。 ・校内事故防止指導・登下校安全指導・体制の充実を図る。 ・生活点検の取組を充実させ、基本的生活習慣の改善を図る。 ・より良く生きるため体・命の教育の充実を図る。 ・登下校の安全を守るために地域・PTA連携の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通して教科体育、体力づくりを充実させることができる。 ○きめ細かな日々・月ごと・特設の食育・保健指導の成果により、食生活への関心・保健意識を高めることができた。 ○危機管理意識・対応力を高めるための連携・訓練・施設管理を行い、組織的に危機管理力の向上を図ることができた。 ○校内安全指導、保護者・地域連携により校内事故防止、登下校・地域での事故防止の徹底を図ることができた。 △生活点検の取組を活用し、基本的生活習慣の改善を図る。 △登下校・校内生活安全に関する環境整備・施設整備に取り組む。
<p>特別支援教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人間尊重の精神を基盤にした「共に生きる心豊かな児童」を育成する。 ○心身の障害特性に基づく、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネータの機能を充実させ、職員研修・特別支援教育実践力の向上を図る。 ・定例支援会議による児童実態の把握、指導・支援方法の策定により、全校体制による指導の充実を図る。 ・発達障害理解・指導についての理論的研究を充実させ、その成果を学級経験・学習指導場面で具現化させる。 ・保護者・関係機関との丁寧な連携、個別の指導計画に基づき、個別な配慮が必要な児童への組織的支援の充実を図る。 ・年間を通して丁寧な就学指導を行い、障害の状況に応じた適切・適確な個別指導の充実を図る。 ・障害を正しく理解するため、理解教育の充実を図る。 ・大宮学園園庭合同研修により、保幼小中の特別支援教育の一貫と接続の充実を図る。 ・迅速、的確、誠実で丁寧な家庭との連携を行い、子育て課題克服に向けた家庭連携・支援の充実を図る。 ・子育て課題を共有し、子ども達に生きる力を育んでもらいために、多数の保護者の参加による懇談会の充実を図る。 ・地域の教育素材・人材を学校教育に有効に活用するため、地域・保護者との連携の充実を図る。 △大宮学園PTA・大宮学園教育支援協議会との連携により、大宮地域が一体となつた教育環境づくりの充実を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発達障害理解・特別支援教育体制の充実に関する研修を行い、個人応じた支援を充実させることができる。 ○定期例会議により丁寧な児童実態把握を行い、関係機関・保護者との連携により、共生理解を深めながら、組織的に個人応じた個別な支援・対応を図ることができる。 ○様々な個別な事情による突発的不適応状況に対し、状況に応じた組織的支援力・対応力を高めることができる。 ○昨年度成果を引き継いだ年間を通じた丁寧な就学相談の成果により、障害の状況に応じた就学指導の充実を図ることができた。 ○大宮学園引き継ぎシート・特別支援学級主任会による実践研修により大宮学園特別支援教育の充実を図ることができた。 △さらに、保護者・関係機関との連携を充実させ、個別の指導計画に基づづく個人応じた支援の充実を図ることができた。 ○ケース会議・関係機関等組織的な協議に基づく、迅速で丁寧な家庭との連携を行い、児童の個々課題に対する改善に向けた連携を充実させることができた。 ○地域の教育素材・人材を活用した教育活動の充実を図ることができた。 △子育て課題を共有し、子ども達に生きる力を育んでいくための全員参加による学級・学年懇談会の開催を目指す。 △大宮学園教育支援協議会との連携により、地域との教育環境づくりの充実を目指す。
<p>開かれた学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校・家庭・地域社会の教育環境を整え、子ども達が大切に包み込まれ、育まれていることを実感することができる。 ○大宮学園教育支援協議会の活動の充実により、小中一貫教育の教育環境づくりを充実させることを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・家庭・地域社会の教育環境を整え、子ども達が大切に包み込まれ、育まれていることを実感することができる。 ・地域の教育素材・人材を学校教育に有効に活用するため、地域・保護者との連携の充実を図る。 △大宮学園PTA・大宮学園教育支援協議会との連携により、大宮地域が一體となつた教育環境づくりの充実を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○経営的会議としての学年主任会、教育課程推進会議としての企画委員会、基幹分掌について、機能の強化、推進の効率化を図る。 ②ケース会議の機能を強化し、突発的不適応状況に対する、組織的支援力・対応力を高める。 <p>【教育・研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①大宮学園目標である「ことばの力」「つながる力」「思いやる力」を育むための教育活動の充実を図る。 ②人権意識・規範意識の高揚を図り、自ら考え判断して生活上の諸問題を解決する力を育むための学級経営・学校運営の充実を図る。 ③課題解決力・表現力・人間関係を結ぶ力を育むための教育活動の充実を図る。 ④理論的研究・実践的研修の充実を図る。（主体的・対話的で深い学びを育む授業改善、生徒指導力・対応力の向上、新学習指導要領に係る研修） <p>【連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①大宮学園3会議・3部会と、校内外中一貫教育推進部の連携の強化を図る。学園教育活動、研修活動の効率化を図る。 ②学級懇談会、家庭・地域との連携を充実させ、家庭の教育力の向上を図る。 ③本校PTAと大宮学園PTA、大宮学園教育支援協議会との効果的な連携の仕組みを整える。

平成30年度学校評価自己評価報告

学校名「京丹後市立大宮南小学校」

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成 果 と 課 題 (自 己 評 価)	
大宮学園 教育目標 「自他を尊重し、自ら学ぶ 子どもの育成」 ・学級づくりを基盤にして確かな学力をつける。 ・人権意識の育成を図る。 ・体験活動の充実を図る。	○人権教育を基盤とし、互いの良さを認めあえる学級、仲間はずれやいじめの早期発見・対応により、安心して学び活動できる学級、学校づくりを進めることができた。 △深い学びのできる授業展開の工夫をし、学力の向上を図る。	・わかる・できる授業作りのため、研究授業を行う。 ・言語活用カリキュラムを活用する。(話し合い活動で表現力を高める。) ・生徒指導の3機能を生かした授業作りをする。 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究をする。	○京丹後市学校給食研究発表会に向けて、教育の授業研究をするとともに、主体的・対話的で深い学びにつながる授業について、全教職員で研修を行い他の教科にも生かすことができた。 ○△話し合い活動を意識的に授業や特別活動の場面で設定し、一定の成果は出ているが、学級によつては、まだ指導が必要などころもあるので、引き続き研究していく。	大宮学園 めざす子ども像 (1) 意欲的に学び、チャレンジする子どもとの育成 (2) 自他を大切にし、思いやりのある子どもとの育成 (3) 心身を鍛え、活動的な子どもとの育成	
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として 教育課程 学習指導 基礎基本の定着と活用 する力の育成	(1) 中学校との接続を意識した連続性のある指導の充実 (2) 基礎基本の定着と活用 する力の育成	・事例研究を行う。 ・自尊感情を高める取組をする。 ・遇に1回は児童の実態交流をし、共通確認を図る。 (会議後に時間をとる。) ・児童理解を深める。 ・実態交流の中で、児童の見方にについて若い教師に学ばせる場を作り、人権感覚を磨かせる。 ・連絡・報告・相談を欠かさないことを意識づける。	○毎週1回会議後に児童の実態交流の時間を作るとともに、気になる事象があつた時は、生徒指導部を中心にして事実確認を行い、方向性を決め、複数で早期対応を図ることができた。 △担任によつては、報告が遅れることがあるので、今後も連絡・報告・相談を密にするよう指導していく。		
生徒指導 （1）児童の人権意識、自尊感情、規範意識を高める。 （2）児童理解を深める。 （3）いじめの未然防止・早期発見・早期対応を徹底させる。		・体力テストの結果を踏まえた授業改善をする。 ・ルールを守り、自他を大切にする安全教育、命の教育をする。 ・市学校給食研究協力校として、これまでの取組成果を生かし、課題改善に向けた取組を推進する。（栄養教諭・PTAとの連携）	○地域の協力も得ながら、地場産の作物の素晴らしさを知り、バランス良く食べることの大切さを、発達段階に合わせて学ぶことができた。 ○PTA・教職員が協力して、にこにこカーによる安全パトロールの実施や、多くの安全ボランティアの立ち番や付添登校などにより、安全に登下校ができた。		
健 康 (体 育)・安 全	(1) 体力・運動能力の向上 (2) 健康安全教育の充実 (3) 食育・給食指導の充実				

危機管理	<p>(1) 状況を判断し主体的に行動する態度を育てる。</p> <p>(2) 児童・教職員の様子を観察し、未然防止・早期発見早期対応を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練等で学んだことを生かし、災害が起きた時最善の方法を自ら考え行動できる児童を育てる。 ・日々の様子から情報収集をし、危機について未然防止・早期対応ができるよう、連絡・報告・相談を徹底させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○連絡カードを使った引き渡し訓練を実施することができた。 △不審者対応の避難訓練が、計画にはあったが、実施することができなかつた。来年度は、防犯教室も含めて実施する。
特別支援教育	(1) 障害のある児童の実態に応じた的確な支援をする。 (2) ユニバーサルデザインの授業を進める。 (3) 児童・保護者のニーズに応じた特別支援教育を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導・教室経営にユニバーサルデザインの視点を取り入れる。 ・適切な児童の見立てをするとともに、効果的な個別の指導計画が作れるよう、学校体制で取り組む。 ・保護者面談を行い、必要があれば外部機関との連絡をし保護者のニーズに応えられるような取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教室環境、授業の流れなどに、ユニバーサルデザインの視点を取り入れることができた。 ○電子黒板を活用して、特性のある児童にも、集中しやすい授業になるよう工夫することができた。 △児童の実態に合った学ぶ場所の提供ができるよう、更に面談をし理解を図る必要がある。
次年度に向けた改善の方向性	人権教育を基盤にし、互いの違いや良さを認められる学級、いじめのない学級・学校づくりを推進する。 ・小中一貫教育の視点を大切に、主体的・対話的で深い学びにつながる授業を意識した授業改善を進めることにより、児童の学力向上を図る。 ・新学習指導要領実施に向けた研修をする。(プログラミング教育など)		

平成30年度学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立網野北小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成 果 と 課 題 (自己評価)	
教育課程 学習指導	1 「ねらいが明確で「わかる」」「できる」授業を進める。 2 全校体制で個に応じた指導・学力補充体制を確立し、基礎・基本の定着を図る。 3 身に付いた知識・技能を育成する力を活用して思考する力・判断する力・表現する力を育成することを研究授業の視点として意識しながら授業充実を進めること。 4 児童が意欲的に学習できる多様な学習形態を取り入れた授業・環境づくりの設定を進めること。	1 研究推進部を中心にはねらいが明確で「わかる授業」「できる授業」の算数科の研究授業・公開授業を行い、児童アンケート「自分なりの考え方を発表したり書いたりしますか」の問い合わせに88%がしていると回答した。 △ 教科の基礎・基本を身に付けさせ、見える学力の充実を図るとともに、主体的・対話的な授業研究に取り組み、深い学びの具現化に努める。 △ 家庭連携し、家庭学習の充実を図る。		○ 研究推進方針に沿って学び合いうことができ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくりをした。 ○ スキルタイム、放課後補習を実施し、基礎基本の力をつけた指導を行った。 ○ ジュニアわくわくスタディを実施し、児童のつまづきに応じた指導を行った。 ○ 漢字検定・算数検定も活用しながら目標を持たせ、学力の向上を図った。国語AB層(11P↑)DE層(→) 算数AB層(13P↑)DE層(8P↓) 4月・1月比較	
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として				○ 目標達成のための具体的行動を提起し、組織的に取り組んだり、年間を通して生徒指導の3機能を大切にした指導を継続したりすることで、学級生活に満足な児童を12ポイント増、不満足な児童を4ポイント減じる等、いごこちのよい学校づくりを推進することができた。 ○ 日頃より「報告・連絡・相談」の重要性について職員間で共有化し、いじめ、問題事象に関する事象が生じた際は、早期に事実関係を掌握し、該当者の内面も理解しながら事象の解決に繋げることができるた。 △ 道徳の教科化に伴い、道徳科の評価について校内研修できた。「考え方議論する道徳」について、授業づくりを通した研究を進めた。	
生徒指導	1 よきを認め合い、伝えられる活動を積極的に取り入れる。 2 発達段階に応じた「思いやり」の心を育成する指導を進める。			1 教師が児童のよさを、また児童同士がお互いのよさを学級通信や学級活動、多様な異年齢集団活動の中で、計画的に伝えることで、明るく積極的な態度を促進させる。 2 生徒指導の3機能(自己存在感・共感的な人間関係・自己決定の場)を大切にした教育実践を推進する。 3 いじめや問題事象等侵害行為への対応は、迅速、丁寧、組織的に行う。 4 道徳の時間を中心として道徳教育・人権教育を推進する。 特にB「主として人とのかかわりに重視すること」 切、思ひやり」について指導を重視する。	

健康（体育）・安全	1 全校的な体力にかかわる取組の充実により、体力向上を図ったことや、基本的な生活習慣を身に付けさせたりして、学校を作成する。 2 困難なことにも粘り強く挑戦している児童へのきめ細かな支援を行う。 3 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。	1 期間を決め、体力づくりの取組を行い、体育の授業と連動することで、体力（特に持久力）向上を図つたり、PTAと連携して基本的に生活習慣の確立を目指したりして、休まず学校に登校できる意欲を高める。 2 違段階に応じて明確にし、特にA「主として自分自身に関すること」「希望と勇気、努力と強い意志」についての指導を重視し、粘り強く挑戦する態度を高める。 3 教育相談部会を中心支援を必要とする児童を的確に把握し、具体的な支援・手立てを打つ。	○「全員登校 20日以上」の目標をPTAと共に設定し、網野学園「これだけは！」（家庭編）を意識する取組を「生活点検」等により推進したり、配慮児童の家庭と定期的に面談を持ったりする等、丁寧な指導を継続したことで、全員出席日を27日(2/27現在)とすることができた。(保護者アンケート 基本的生活習慣確立 肯定率 91%) ○駅伝競走大会での成果 優勝、9位 ○配慮児童に係る個別の教育支援計画、個別の指導計画を保護者と共に作成し、それに基づく教育実践を積み上げ、評価し改善をするというサイクルを地道に継続することで、児童へのきめ細かな支援を行うことができる。
		1 コンプライアンス意識の高揚を図り、保護者、保育者、PTA役員等に信頼と期待にこたえる。 2 いじめ等問題事象の早期発見・早期解決に努める。 3 超過勤務の縮減に努める。 4 安全な登下校の為の環境づくりを進めます。	1 コンプライアンスハンドブック等を活用した校内研修を行う。 2 「人権」を大切にした学校経営をし、日頃から教職員間で何でも話せる関係づくりに努める。 3 PTA役員等密接な連携を図りながら、課題解決に臨む。 4 超過勤務時間の実態共有化と年間を通して縮減の働きかけ、校務改善に努める。 5 見守り隊と日常的な連携を図る。
		1 丁寧で分かりやすい双方の情報発信と積極的な学校公開を進めます。 2 PTA・地域の関係機関等との取組により連携を強化する。	1 学校だよりや学年通信、ホームページ等で児童の学校の様子を分かりやすく発信したり、保護者の意見も載せたりして、双方向の発信を意識するとともに、積極的な学校公開を進めます。 2 学校公開日を設け、保護者や地域住民の学校参観を促進する。 3 PTAとの積極的な連携を進めるとともに、地域と一緒にとした取組を計画的に実施する。
開かれたり	△不登校傾向児童・要配慮児童・家庭への丁寧な対応	△学期ごとの学力履歴推移の掌握、それに基づく手立て SNSに係る研修 △基本的な生活習慣の確立、スマホ・ユーチューブ等の使用による安心できる、侵害されない場所にする。多人数学級へ担任外による支援をする。 △満足群でない子どもたちへの手立て 学級を希望する個人懇談を希望制に、7月学級懇談会、下校時刻の検討△働き方改革の視点も考慮した次年度の年間計画作成（PTA行事含む）	○学校公開日 10月5日（金）学校公開日 授業参観、神楽鑑賞 11月17日（土）学習発表会、校内作品展 等
3学期、次年度に向けた改善の方向性	△不登校傾向児童・要配慮児童・家庭への丁寧な対応	△学期ごとの学力履歴推移の掌握、それに基づく手立て SNSに係る研修 △基本的な生活習慣の確立、スマホ・ユーチューブ等の使用による安心できる、侵害されない場所にする。多人数学級へ担任外による支援をする。 △満足群でない子どもたちへの手立て 学級を希望する個人懇談を希望制に、7月学級懇談会、下校時刻の検討△働き方改革の視点も考慮した次年度の年間計画作成（PTA行事含む）	○学校公開日 10月5日（金）学校公開日 授業参観、神楽鑑賞 11月17日（土）学習発表会、校内作品展 等

平成30年度学校評価自己評報告

学校名「京丹後市立網野南小学校」

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)		
網野学園小中一貫教育の目標から 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・ 徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成」 目指す子どもも像 ・あかるく元気に進んで学ぶ子 ・みんなかよく支え合う子 ・のびのび生き生きやりぬく子	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的な授業研究の積み上げによる授業改善、スキルタイ ムや放課後補習等の取組による学力の定着 ○網野学園「これだけは」や生徒指導の3機能等を生かしたことによる安定した学級経営 △家庭環境の厳しい児童、低学力児童、外国籍児童等への一層の具体的な指導・支援 △「具体的・対話的で深い学び」を具現化する授業づくり △働き方改革に係る学校運営の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・網野学園と校内研究と連動させ、「ものの見方・考え方」に着目した授業づくりを進める。 ・授業及び学力補充の取組や網野学園学力向上の取組を効果的に実施し、基礎学力(読み・書き・計算等の習熟)や学習習慣の定着、家庭学習の充実に努める。 ・次学期または来年度の教育課程編成や進捗状況を日常的に把握・検証し、ていねいな評価を行う。(カリキュラムマネジメント) 	<ul style="list-style-type: none"> ○「算数科における『深い学び』の追求」をテーマとし、計画的に授業研究を積み上げ、課題設定の工夫、発問やゆさぶりの工夫、振り返らせ方等、学び合うことができた。 ○学習指導や学校行事等の評価を積み上げ、取組の見直しを含め、次年度の教育課程編成に生かすことができた。 △授業改善を中心とした学力充実の取組の強化 △研究推進の成果を生かした「深い学び」の授業づくりの一層の推進。 		
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	<ul style="list-style-type: none"> ○「よく学ぶ」学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な学習内容の習熟と、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の3機能(自己決定・自己存在感・共感的人間関係)を大切にした教育実践を推進する。 ・教育活動を通して、それぞれの目標や目的、児童の姿等について、具体的な評価と行動の振り返りを重視する。(指導者としても、児童自身も振り返りを重視する。) ・網野学園「これだけは」(授業規律確立と規範意識醸成)等で、ルールの大切さの価値付けや共有化を図る。 ・いじめや問題事象等の対応については、窓口の一本化(教頭)とし、正確に事実を確認することを原則として、迅速に、丁寧に、組織的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> △一部の学級の荒れについて、リーダーシップを發揮した組織的な対応ができなかつた。 △いじめによる問題事象が発生し、迅速な初期対応ができず、早期解決に結び付けることができなかつた。 	

健康（体育）・安全	<p>○「毎日登校できる」学校 生活リズムを整えるとともに、目標を決めて毎日登校し、その目標に向かって挑戦しようとする態度を培う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・網野学園「これだけは！家庭編」をもとに、各家庭やPTAとの連携を図り、生リズムの確立を目指す。 ・家庭学習をやり切るなど、取組を充実させるとともに、目標をもつて登校できるような学級経営や学校経営を行う。（授業づくりや特別活動の実施） ・給食時間におけるランチルームでの全校一斉の食育指導を大切にし、計画的・継続的に積み上げる。 ・毎朝の児童の様子及び登校の状況を把握し、該当分量と連携した指導や取組を行うで、より安全な登下校の確保や不登校（登校しづら傾向）の早期発見を行う。 ・非行防止教室・薬物乱用防止教室・自転車教室等を早期に実施し、安全についての意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「安心・安全」をキーワードとして、PTAと共に活動を行なうことができた。特に、保護者へのアンケートを実施することで、校区の危険個所を共有することことができた。 ○毎朝の児童の状況を把握し、教育相談部と連携しながら、配慮児童の家庭と定期的に面談を持ったり、毎朝の登校確認をしたりするなど、丁寧な指導を継続することができた。 ○給食の時間を毎日全校が場を同じにする大切な場と位置づけ、全教職員で指導に当り、配膳など当番活動をより円滑に進行したり、遅食児童が減少したりした。 △情報モラルや情報機器使用等の啓発 ○安全確保と超過勤務の縮減の2つの観点から、次年度からの下校時刻の変更（年間4時下校）を決定することができた。 ○問題事象や学校の取組状況についても、PTA会長を中心して提供し、PTA役員との情報共有を大切にすることことができた。 ○コンプライアンスハンドブック等を活用した校内研修、発生した問題事象については教職員間で共有し、再発防止に努めた。 △教職員の超過勤務縮減の意識化 ○昨年度よりHP更新は減少したが、児童のがんばりを地域に発信できた。（毎日約1,000件のアクセス） ○広くなつた校区で、各地区の特徴を活用した地城学習を開催できた。また、各学年において地域のゲストティーチャーを招いた学習活動を仕組むことができた。 △学習内容の確実な定着を目指した授業づくり △「深い学び」を具現化する授業づくり △指導者との信頼関係に基づいた安定した学級経営の推進 △家庭環境の厳しい児童、不登校傾向児童、低学力児童への一層の具体的な指導 △働き方改革に係る学校運営の改善（教職員の意識変革）
開かれた学校づくり	開校5年目。保護者、地域、関係機関との連携を大切にした学校経営をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・再配置による諸課題については、アンテナを高く張り、日常的に柔らかく対応し、改善し続ける。 ・学校や児童の様子を知つてもうため、学校関係者については、年間を通して授業参観の機会を広報する。 ・学校便り、ホームページ等で、子ども達の様子について積極的な情報発信を行う。
次年度に向けた改善の方向性		

平成30年度学校評価自己評価報告書

学校名 [京丹後市立島津小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成 果 と 課 題 (自己評価)	
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	<p>1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。</p> <p>2 全ての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。</p> <p>3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。自然・人・社会とともにつながり、郷土を愛する心を育てる。</p> <p>4 外国語の研究を、その他の学力向上につなぐことが難しかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外国語活動の研究推進を通して、全教職員が知恵を結集し授業実践力向上を目指す体制づくりが進んだ。 ○ 年間を通じ児童も教職員も共に「合言葉」をもとにした全校体制の取組ができた。 ○ アメリカやニュージーランドの小学生との交流ができ、英語でのコミュニケーションのイメージと学習意欲が高まった。 △ 外国語の研究を、その他の学力向上につなぐことが難しかった。 	<p>1 外国語活動の研究を柱として教職員の指導力向上、児童の学力向上、そして学校力の向上を目指す。</p> <p>2 全ての教育活動において、合言葉（短期目標）を位置付け、「島小システム」による学校運営を進めます。</p> <p>3 網野学園の教育目標、経営方針を基に、小中一貫教育を生かした連携を進める。（学力、生徒指導）</p> <p>4 生徒指導・教育相談の組織的な対応力・指導力を高め、いじめ・不登校の未然防止に努める。</p> <p>5 勤務時間縮減に努める。</p>	<p>△ 「これだけは！」に沿って授業づくりや学習規律についての改善を図ったが、全体でやりきることには至らなかった。</p> <p>○ 家庭への本の持ち帰りを工夫し、読書の取組も時間が充実した。チャレンジタイムの取組も時間ができきた。</p> <p>○ 全校の取組として充実することができるようになった。</p> <p>○ 家庭学習がんばり週間は、取組として定着し、学年にあつた学習時間の意識が100%の学年が3学年であった。</p>	
生徒指導	<p>・網野学園の共通指導事項を踏まえた指導を通じて、授業改善・学力充実の取組を進めます。</p> <p>・網野学園の取組と連携し、学力向上プログラムを基にした取組を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・網野学園推進会議の提案をもとに「これだけは！」を、全校でやりきつていいく。 ・「これだけは！」を日常的に実践し、三者会及び企画委員会による評価を返し改善を目指す。 ・朝読書、チャレンジタイムへの評価・改善により、ねらいを明確にした時間として充実させせる。 ・網野学園と連動して、家庭学習がんばり週間を実施し、効果を高める。(PTAとの連携事業) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生指部を中心とした組織的な対応が迅速に行えたので、いじめや問題事象の早期解決・未然防止につながった。日々トラブルはあるが、欠席の日が年間100日をはるかに超えることができた。 ○ 全校の場での教師の評価の視点が一致しており、児童の自己肯定感を高めることができた。 ○ 2ヶ月サイクルで示した「合言葉」は、児童に目指す方向性がわかりやすく、取組の活性化につながった。 ○ 児童会活動でも生徒指導の3機能をふまえた指導が日々積み上げられ、児童の変容が見られた。 		

<p>健 康（体 育）・安 全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・網野学園家庭編に基づく取組を、他校と連携し進める。 ・健康の保持増進と体力の向上を図る。 ・安全への実践的態度の育成を図る。 ・安全の推進を図る。 ・食育の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・網野学園「これだけは（家庭編）」に基づき、PTAに働きかけ、家庭と連携した取組を進める。 ・朝の体力づくりの更なる充実を目指し、意欲を高める取組を進める。 ・日々の生活・活動を通して「安全」を考えさせ、実践させる場面を作る。 ・実態に合わせた指導を工夫し、食に関する学習意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習がんばり週間の取組を通して、基本的な生活習慣への意識が高まった。 ○朝の体力づくりは見通しをもたらせ計画的に行なうことで、児童が個々の目標に向かって意欲的に取り組んだ。 △校内での安全な生活は指導を続けているが、廊下歩行など徹底できない課題がある。 ○市給食研において、本校の給食の係わる取組について発信することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教員が英語を学ぶ研修の機会を校内で設定し、担任が Classroom English を使って授業をした。教員が英語を話すモデルとなり、相槌や積極的にコミュニケーションを図ることの大切さを2年次の研究協議会で発信することことができた。 ○イングレッシュド小学校ことライブ交流が実現し、学んだ英語を実際に生かせる体験ができた。 ○児童は、生活科の校区探検や丹後学等で、「琴引浜」や地域の自然に対して関心をもち学習を行なうことができた。英語バージョンの歌を通しても、発信ができた。
<p>特 色 あ る 学 校 づ く り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語活動指導力の向上を図る。 ・豊かな体験を基にした国際理解教育実践を推進する。 ・「琴引き浜」をテーマとして、積極的に地域に学習の成果を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「外国语活動」の授業を通して、コミュニケーション力を高める。また、その力を他教科に生かし、自分の考える授業を活発発に出し合い主張的・対話的で深い学びの過程を経て目指す。 ・2年次の研究協議会を通して研究推進の成果と課題を整理し、3年次の発表会につなぐ。 ・マンチエスター・メモリアル小学校との交流を年間計画に位置付けて、異文化体験を計画的に豊かにする。 ・「琴引き浜」学習を通して、地域の方々に「教えていただく」、「発信する」機会を積極的に設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○外部の医療機関や SC・SSW と連携した継続的な取組を丁寧に進めた。 ○個別の支援計画・個別の指導計画を作成し、配慮の必要な児童への具体的な指導・支援を行い、一人一人の自立を目指した取組が進んできた。 △次年度さらに取組を継続し、効果的な指導・支援につなぐ。
<p>特別 支 援 教 育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を必要としている児童に対して、組織的な取組を進めるとともに、児童理解の力量を高める。 ・就学指導の充実を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に配慮の必要な児童に対して、ケース会議を設置し組織的な対応をする。 ・外部の専門機関と連携し、特性についての知見を広げたたり、特別支援教育指導員の効果的な活用による指導・支援を行ったりして、一人一人の自立を目指した取組を進められる。 ・該当保護者に特性に応じた支援についての理解を基盤とした修学指導を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①府小研「外国语活動」研究指定をして、全ての教職員が協働的に授業研究を行い、さらに主体的・対話的で深い学びのある授業を追究する。 ②外国语活動で児童に付けてい力を国語科の「話す・聞く」とリンクさせながら言語の力として授業実践を積み上げる。また、身に付けたコミュニケーションを図ることによって児童の意欲を高め、児童の学力の向上を目指す。 ③網野中学校との連携をもとにした授業の視点もさらに充実させ、網野学園としての取組を進めるとの連携も丁寧に進め、学習指導や配慮を要する児童への支援の充実につなぐ。 ④特別支援学級を中心とした連携も図り、組織的・計画的な進行管理のもと教育的ニーズに応じた支援を適切に行なう。 ⑤生徒指導・教育相談の組織的な対応力・指導力を高め、いじめ・不登校の未然防止に努める。

平成30年度学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立橋小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)	成 果 と 課 題 (自己評価)	
教育課程指導 学習指導	<p>【教育目標】 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛しし、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進」</p> <p>【目標する子ども像】 あ：明るく元気に進んで学ぶ子 【知】意欲的に学習に取り組む子どもも み：みんなかよよく支え合う子、仲間と支え合う子どもも 【徳】規範意識をもち、やりぬく子どもも の：のびのび生き生きと、やりぬく子どもも 【体】粘り強く心身を鍛え、やりぬく子どもも 「毎日元気に登校したくなる学校」を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 綱野学園小中一貫教育：「これだけは！」で付けたい力 ○ を意識し、授業づくり、生活習慣の確立、家庭への働きかけ等、教育活動全般に波及させ、課題解決の取組を推進することとする。 ○ 全学年とともに授業での言語力育成、ドリル時間等を活用して、計算力、語彙力、漢字力等の定着を図ることができた。 ○ 特別活動部、生徒指導部等が、児童会活動の充実、月目標の取組などを行った。 △ 日常的に隣接学年で教材研究等を行い授業力向上に努める。 △ 要配慮児童等への対応について共通理解を図る。 	<p>「たしかな大作戦 100」子どもたちの「元気と笑顔があふれ、様々なことに挑戦する」姿を目指して、楽しい学校に登校したくなる学校づくりをする。</p> <p>①毎日元気をみがこう！ ②一人一人の個性・よさ・可能性を伸ばすことで意欲的に自分の考えをもち主張的に行きましょう！ ③自分を大切にしよう！ ④自分がかな人間関係を築き、学び合い、励まし合い、支え合う。 ⑤何事も最後までやりぬこう！ ⑥何事も最後まであきらめずにやり通す粘り強い心を育てる。</p>	<p>「たしかな大作戦 100」子どもたちの「元気と笑顔があふれ、様々なことに挑戦する」姿を目指して、楽しい学校の実現を目指し研究を深め、授業改善が進んだ。</p> <p>△特別の教科道徳となり、「考える、議論する」道徳、場を指導・評価でき、評価であります。△特に指導・評価も行つたが、この時間の実績を踏まえ、確かに指導・評価に対する必要がある。</p> <p>○△担任とどこで、授業規律を確立するとともに、学習意欲を高めるところができた。</p> <p>○生活科、総合的な学習の時間の学習を通して、校区の魅力を調べ、発信できる力を付けることができる。</p> <p>○生徒指導の三機能（自己存在感・自己有用感、共感的・自己決定の場）の視点を大切に、授業づくりや異年齢活動を充実させることができた。</p> <p>○△日々の道徳教育や人権教育を通じて、温かいものとの見方、違いを認め合える関係づくりに努めたが、異年齢活動の場ではよい言動がみられるが、いつでもどこでも正しい判断をして実践する力を高めていく必要がある。</p>	
生徒指導	<p>1 豊かな人間関係を築き、支え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1・4年生の学力課題の改善につなげる。 ○ 生活科、総合的な学習の時間の学習を通して、校区の魅力を調べ、まとめて、発信できる力を付ける。 ○ 教育活動全般に生徒指導の三機能の視点を大切にする。 ○ △道徳教育、人権教育、人権法やルールに関する知識を深めることで、自分の意見や異年齢活動、児童会活動、豊かな学級活動、豊かな人間性を培う。 ○ △学級活動を通して互いに認め合うことができるようになる。 ○ 教育相談部会、捉え方ができるようになる。 ○ 登校の未然防止・早期発見・早期解消を行う。 	<p>1 一人一人の個性・よさ・可能性を伸ばすことと希望のもとに学び、将来に夢と希望のもてる児童を育てる。</p> <p>2 主体的・対話的で深い学びの具現化をめざし、学級づくりと授業づくりを連動させ、言語活動を充実させる。</p>	<p>○ 6月に綱野学園小中一貫教育研究会を開催し、綱野学園4小学校各校で、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し研究を深め、授業改善する」道徳、今年度の時間の実績を踏まえ、確かに指導・評価に対する必要がある。</p> <p>○△担任とどこで、授業規律を確立するとともに、学習意欲を高めるところができた。</p> <p>○生徒指導の三機能（自己存在感・自己有用感、共感的・自己決定の場）の視点を大切に、授業づくりや異年齢活動を充実させることができた。</p> <p>○△日々の道徳教育や人権教育を通じて、温かいものとの見方、違いを認め合える関係づくりに努めたが、異年齢活動の場ではよい言動がみられるが、いつでもどこでも正しい判断をして実践する力を高めていく必要がある。</p>	

健康（体育）・安全	<p>1 何事も最後まであきらめずにやり通す粘り強い心を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇生徒指導部と特別活動部が連携し、実態を踏まえた月目標の設定・提案をし、全学年が具体的な取組を行い生活向上を目指す。 ◇朝の体力づくりの取組などを通して、児童が目標達成に向けて最後まで粘り強く取り組む力を付ける。 ◇生活習慣の乱れから、学習意欲が減退しがちな児童に対して、養護教諭、担任を中心とした改善する。 ◇6年生を中心ティッシュ配りや看板作り、全学年の交通安全教室などに取り組み、無事故を目指す。 	<p>○月目標を設定し、各学級で具体的な動きをすることがで、自ら学校生活を行っていこうという機運が高まつた。</p> <p>○△ゲームの楽しさで約束を守れず、生活習慣の乱れる児童に対して家庭と連携を深めるとともに、保健指導等でブルーライト・ゲームの乱れから、学習を行った。今後も繰り返し指導することが肝要である。</p> <p>△自転車の正しい乗り方にについて、繰り返し指導を行い交通安全に対する実践力を高めたい。校内でも危機管理意識を高め、怪我を減少させたい。</p>
研修（質の取組）	<p>1 学校課題を踏まえた研修テーマを意識した研修を行うことで、課題克服を目指す。</p> <p>2 個々の教職員が自己課題を踏まえた研修テーマを設定し、日々学び合い、指導力を高める。</p>	<p>○センター講座、市小研等学びの場を大切にし、伝達講習を行うことで学んできたことを広めることができた。</p> <p>○6月の京丹後市小中一貫教育授業研究会にて6年生の授業研究を行い、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して、ねらいの明確化、ペア、グループ等での対話からの学び等について研究を進めることができた。</p>
特別支援教育	<p>1 ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教育環境の充実に努める。</p> <p>2 個々のニーズに応じた適切な支援を組織的に行う。</p>	<p>○教育活動全般に誰もが「わかる」「できる」指導・支援ができるよう取組を進めた。特に、1年生の入学時にリハーサルを行ったり、SSの活用を図ったりすることで、授業規律の確立を図るとともに学習意欲を高めることができた。</p> <p>△特別支援学級はもちろんだが、通常学級に在籍する配慮を要する児童への対応についてさらに研修を進める必要がある。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>次年度も「学力の充実・向上」が最重要課題、その具現化のための「特別支援教育の充実」（ユニバーサルデザイン、合理的な配慮）をチーム橋小で推進する。また、給食・食育等も絡めた生活面での課題に取り組んで、児童の状況を見立て、担任が個別の教育的ニーズに応じた効果的な指導を行おう。さらに、SC、SSW、学級支援ボランティア等の外部人材を活用し、専門性から学び効果的な指導・支援を行っていきたい。</p> <p>ふれる楽しい学校づくりをする。</p> <p>今年度弱さを感じた力</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 読み取る力（国語の読み取り、問題文の意味理解等の力） ② 深く考える力（生活・学習面共に思考力） ③ コミュニケーション力（相手の気持ちを感じながら、自分の気持ちや考えを伝える力） 	<p>※ユニバーサルデザインの視点 【焦点化・視覚化・共有化】</p>

平成30年度学校評価報告

学校名「京丹後市立豊栄小学校」

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成 果 と 課 題 (自己評価)	
○学校教育目標 『夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成』 ○めざす児童像 (1) ことばで伝え合い、主体的に学ぶ子 (知) (2) 自分を大切にし、人を思いやれる子 (徳) (3) ねばり強く身体をきえたる子 (体) ○めざす学校像 (1) 仲良く関わり合い、心やからだをきかえ、学び意欲にあふれる楽しい学校 (2) 地域の自然や文化の良さを知り学び、児童・地域・保護者から信頼される学校	・不登校児童や配慮を要する児童への組織的な対応すること で改善に向かうことができた。 ・家庭学習への意欲付けが「家庭学習がんばり週間」を設定するこどりにより有効に作用した。生活リズムづくりへの協力依頼をさらに進めること ・学校便りや学級通信だけでなく、ホームページの更新をすることで情報発信ができた。 ・コミュニケーション能力の育成に向けた研修を実施し、「長文を読む・考えをまとめて書く・人の話を聞く」力をさらによく伸ばす。	・児童の学力実態の把握と分析に基づき、課題を明確にした学習活動の充実を図る。 ・研究推進部、学力充実部からの提起を受け、コミュニケーション力の育成に向けた指導の充実を目指した授業に取り組む。 ・学習規律（ペル着、ペル準）の定着に向けて取り組む。 ・図書館教育の取組を充実させ、読書活動の推進による言語に着目した取組を進める。 ・家庭との連携を密にし、学習習慣及び生活習慣の確立に向けて取り組む。		(1) 居心地のよい学校 安心と安定のある学級経営の充実 望ましい人間関係を築く力の育成 (2) 学力向上を図る学校 基礎基本の定着、思考・表現・判断力（活用） を充実させる学習活動の推進 (3) 家庭・地域にひらかれ、信頼ある学校 家庭や地域と協働する学校づくりの推進	
本市の中学校教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	生徒指導 ○安心と安定のある学級経営の充実を図る。 いじめを許さないことはもちろん、見過ごさない、タイミングな指導を行う。	・生徒指導の三機能（自己存在感・共感的な人間関係・自己決定力の場）を活かした学級経営の推進により、深い信頼関係に基づく人間関係を育成する。 ・日々の肯定的評価の積み上げにより、お互いの良さやがんばりを認め合える集団づくりを進める。 ・児童の日常的な状況を的確に把握し、いじめや暴力、不登校の未然防止や改善に努める。 ・児童に応じたきめ細かな指導により、基礎・基本の確実な定着を図る。		○大きなトラブルや事象の発生がなく、落ち着いた日常生活を送ることができる。どの学級も子ども達との良好な関係を築くことができた。 ○学校生活の中で、とげとげしい言葉遣いが聞かれず、お互いを認め合える人間関係を築くことができた。 △廊下歩行やあいさつの取組、トイレのシリッパ撤え等、概ねできているが、やり切れたという実感は薄い。 △引き続き、いじめや暴力がない学校を維持できるよう一人一人を丁寧に見て、細かなところにも目配ることができるよう心がける。	

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> 元気で規則正しい生活がでることで、健康で安全な生活を送る児童を育成する。 保護者との日常的な連携を大切にし、基本的な生活習慣の確立や家庭での学習習慣の定着に向け、共に学び合う基的な生活習慣の確立に向けた取組を、家庭と連携しながら進める。 児童の欠席があった場合、理由の確認と担任からの働きかけを確実に行い、連續欠席とならないようする。全員登校の日数が多くなるよう、いろいろな機会を通じて児童にも保護者にも呼び掛ける。 登下校の安全に対して地域ボランティアの方々と連携した取組を進める。（毎月の登校指導等） 	<ul style="list-style-type: none"> 〇年間を通して欠席や怪我をする児童は少なかったが下校後、保護者が引率して受診するというケースがあつた。事象の把握と丁寧な保護者連絡が必要である。 △登下校時の歩き方にについて、交通安全に注意しながら一列になつて歩くことを指導していく。 △下校後や休日の自転車の乗り方、ヘルメットの着用について、実態把握をもとにした指導が必要である。 △基本的生活習慣の確立に向け、引き続きゲームやインターネットの利用状況の実態把握から不規則な生活が続かないよう、自己でコントロールできる力を身につけさせたい。 	
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 学校の情報を積極的に発信し、教育活動の向上と信頼される学校づくりにつなげる。 本年度で閉校することを認識し、来年度の新しい学校へのスムーズな移行を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇学級通信、学校だよりの発行、ホームページの更新により、学校全体の動きについて地域や保護者に発信することができた。 △地域の方との連携による読み聞かせや地域学習を通じて学校に足を運んでいただける機会を設けることができ、教育活動を豊かなものにすることができた。 〇閉校を意識し、学校行事への参観呼びかけを地域全体に行い、多くの参観者があった。 △今後も子ども達の様子、教職員の様子、学校の様子について知っていたいだと聞く機会となるよう参観の機会を有効に活用して信頼される学校づくりを目指したい。 	
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 配慮を要する児童を中心にして合理的な配慮に心がけ、適切な支援ができるようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級在籍児童にとどまらず、各学級に在籍する児童への支援の在り方にについて研修を深める。 ・ユニバーサルデザインを取り入れた学級経営に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇1時間の流れを授業の初めに示すなどユニバーサルデザインを踏まえて指導が定着してきている。 △配慮を要する児童に対しての基礎資料づくり（アクセスマント票、個別の指導計画、教育支援計画等）を次年度を見通して整備することができた。 〇開小学校で培ってきた良さを新しい学校で継続できることとして次年度への改善の方向性はないが、豊栄小学校で培つてきた良さを新しい学校で継続できることにしていきたい。 ・集団が大きくなることで、自分の考えを積極的に発信する力をを中心にコミュニケーション力の向上については、学習場面を中心にあるる学校生活の中で鍛えていけるようになる。
次年度に向けた改善の方向性			

平成30年度学校評価報告

学校名「京丹後市立間人小学校」

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)		
教育目標（丹後学園共通） 「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、 未来に向けて主体的に生きる子どもとの育成」 く目指す学校像> 1 よく考え学ぶ学校 2 友だちと仲良くする学校 3 最後まで粘り強く努力する学校 4 家庭・地域のつながりを生かした学校	○基礎基本を定着させる学習を、全校チャレンジとして取り組むことができた。 ○異年齢活動をとおして、高学年はリーダーとしての意識が高まり、低学年へ配慮ができるようになつた。 △学力向上を目指して、少人数指導や個別指導に取り組んだが、学習の定着に課題が残つた。 △集団生活での心得や思いやる心の育成は、低学年から徹底する必要がある。	・研究推進部が中心となつて算数を研究の柱とし、ねらいが明確で児童がわかりやすい（主体的・対話的な深い学びの実現に向けた具体的な手立てがある）授業を研究授業や積極的な授業公開によつて学び合う。 ・丹後学園の研究主題である「子どものコミュニケーション能力を育成する！」と併せて、本校の授業における「学び合い」の充実を図っていく。	○新学習指導要領の趣旨を踏まえ「主体的・対話的で深い学び」のイメージを出し合い、共に化を図り、丹後学園の話し合い活動の系統性を意識して授業実践を進めることができた。 ○図を活用したり、單元を通して算数的活動を入れたり、学習の跡の掲示物を活用したりするなど、児童の思考過程に即した授業展開を意識することで、児童の思考過程に即した授業展開を意識することことができた。	1 授業研究を中心に、ねらいが明確でわかりやすい（主体的・対話的で深い学びのある）授業を進めること 2 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。 3 困難なことにもねばり強く挑戦していくこととする態度を育てる。 4 PTA・地域関係機関、保育所・中学校等との取組により連携を強化する。（小中一貫教育を含む）	○異年齢の活動として取り組んでいる清掃活動において、掃除で輝いた「掃除スーパースター」の癡会での発表や、頑張っている児童をホワイトボードで毎日掲示をして、児童の清掃活動への意識を変えることができた。 ○定期的な個人面談やいじめアンケートによる面談等を担任と担任との複数体制で取り組み丁寧に対応することで、不登校児童の出現を抑えることができている。
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	・単元の指導構想をもとに、単元を通してどんな力をつけていいのか、何をどこまで、できるようにするのかを明らかにする。「学び合い」を通して、児童にどんな考え方を出させ、「わかる」「できる」を実感せしめる。	・研究推進部が中心となつて算数を研究の柱とし、ねらいが明確で児童がわかりやすい（主体的・対話的な深い学びの実現に向けた具体的な手立てがある）授業を研究授業や積極的な授業公開によつて学び合う。 ・丹後学園の研究主題である「子どものコミュニケーション能力を育成する！」と併せて、本校の授業における「学び合い」の充実を図っていく。	・丹後学園の生活のきまりを守り、教師が児童の良さをまた児童同士がお互いの良さを学級活動や多様な異年齢集団での活動の中で、計画的に伝えることで自己肯定感を高め、明るく積極的な態度を促進させる。 ・生徒指導の3機能を生かした指導のもとに、教育相談部を中心に行うとともに情報共有し、組織的な対応を行う。	1 授業研究を中心、ねらいが明確でわかりやすい（主体的・対話的で深い学びのある）授業を進めること 2 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。 3 困難なことにもねばり強く挑戦していくこととする態度を育てる。 4 PTA・地域関係機関、保育所・中学校等との取組により連携を強化する。（小中一貫教育を含む）	○異年齢の活動として取り組んでいる清掃活動において、掃除で輝いた「掃除スーパースター」の癡会での発表や、頑張っている児童をホワイトボードで毎日掲示をして、児童の清掃活動への意識を変えることができた。 ○定期的な個人面談やいじめアンケートによる面談等を担任と担任との複数体制で取り組み丁寧に対応することで、不登校児童の出現を抑えることができている。

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> 全校的な体力にかかるる取組の充実と積極的な児童への指導を行い、学校を休まない強い体をつくる。 ・睡眠の大切さについて、学校だよりなどで啓発していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年体育の時間にサーチットトレーニングを継続して行う。 ・日常の健康観察、起床時間、朝食、就寝時間等の点検などの取組を行う。 ・睡眠の大切さについて、学校だよりなどで啓発していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○サーチットトレーニングをすることで、様々な基本的な動きを経験し、動きを質的に高めていくこと △を継続して取り組むことができた。 △よりよい生活習慣を身につける意識づけにはまだ至っていない。
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの安全（生活・交通・災害） ※安心安全な学校生活ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティアとの連携により安全な登校につげる。 ・登下校のみならず、校外のきまりを守り交通安全を含め安全指導の徹底を図る。 ・校内の危険個所点検を行い、適宜、修繕などをするとで教育環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校支援ボランティアとの連携により登校により登校については一列で安全な登校ができた。 ○通学路に危険な空き家があつたが、地域の方々の努力で取り壊していただき安全を確保することができた。 △下校については、来年度は一斉下校を行い改善していく予定である。
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧で分かりやすい情報発信を行う。 ・PTA・地域の関係諸機関等と連携した取組を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便り、学級通信、ホームページ等により学校の取組や様子を積極的に発信する。 ・PTAをはじめ関係諸機関等との連絡を密に取り、協力を得る。 ・地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的活用を図り、教育活動の活性化と充実を図る。 ・読み聞かせボランティアにより、読書への興味を高め本の積極的な活用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○丹後地域公民館と協力して、間入小学校を会場として高齢者大学や丹後町少年少女意見発表会の開催に協力することで、保護者・地域に広く子どもの活動を発信することができた。 ○1／2成人式では、地域のボランティアの方々の協力を得て、全員が丹後ちりめんの着物を着て保護者の方への感謝の気持ちと決意を発表することができた。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の理念である地域の人達にとつても来年度できる丹後小学校ができるよかったです。 ・豊栄小学校の児童に配慮をしながら、二つの学校がお互いのよさを生かしていくような学校経営を行っていき、学力課題や不登校問題の解決を目指していく。 		

平成30年度学校評価自評報告

学校名「京丹後市立宇川小学校」

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 案		成 果 と 課 題 (自己評価)	
教育課程 学習指導	1 分かる授業、主体的に伝え合い、学び合う授業を研究と絡め、学力向上を図る。 2 個に応じた指導や家庭学習の習慣化を進め、基礎・基本の定着を図る。	1 ねらしいを明確にA層C層の児童へ具体的な手立てを持つた授業を行う。全学級で研究授業を行い、児童の主体性や伝え合う力の研究を進め、授業改善を行う。 2 児童の学力課題を分析し、学力カルテを基に個に応じた回復指導を実施する。またドリルタイムや家庭学習等、継続と強化期間の設定、全校一斉の取組を展開する。	(1) 目指す児童像の実現にむけて、知・徳・体の3視点に対応する組織が機能を發揮して教育活動への具体化を図る。 (2) 小中一貫教育と本校の研究を運動し、児童のコミュニケーション能力や主体性の育成、授業改善による学力向上を図る。	○研究を通して教師の指導や意識も高まり、授業での児童の発表や話合い活動も活発になった。児童アンケートで「授業が分かる」と答えている。 △C層への一層の手立てや全員が分かる授業、思考力・表現力を高める授業を更に目指す。	(3) へき地・小規模校の特性を踏まえ、地域との連携を強め、宇川の地を学び、将来を考える教育活動を充実させる。
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	1 児童自らが課題解決する実践力を身に付け、達成感や自己肯定感を高める。 2 人権意識・規範意識の高揚を図り、いじめのない安定した学校生活を送らせる。	1 目標設定と具体化を児童が考え実践し、達成させる指導を行う。その中で振り返りや互いの良さを認め合い伝え合う場を設定する。 2 道徳の時間や人権時間を中心にしてやりや人権意識を高める取組、日常的な指導と併せていいじめアンケートを実施し、児童の実態を把握しながら、年間を通じた計画的な指導を行う。 3 生徒指導部と特別活動部が連携した月目標を設定し、児童の規範意識・実践力を高める。	○生活目標、学級目標を決めて、課題解決の実践と振り返り、互いに評価し合うことや人権月間だけでなく日常的に思いやりの心を育てることで、児童アンケート「友達の良さを見付けている」「仲良く」「協力」「言葉遣い」等、高評価の結果だった。 △特定の児童の自己肯定感は依然低く、自分の思いを伝えることができない児童も多い。 ○いじめアンケートの分析と指導、非行防止教室等、早期発見と未然防止による指導に努め、概ね安定した学校生活だった。	△特定の児童の自己肯定感は依然低く、自分の思いを伝えることがある。	△特定の児童の自己肯定感は依然低く、自分の思いを伝えることができない児童が多い。

健康（体育）・安全	1 体力の向上と健康新生活に向けた実践力を育成する。 2 児童に安全な生活や命を守るための知識や判断力、行動力を育成する。 3 粘り強く挑戦する態度を養う。	1 全校の体力づくりや行事・体育の授業・異年齢活動を運動させた取組、家庭と連携した「元気貯金」等の取組を計画的に行い、体力向上と基本的な生活習慣を確立させる。 2 安全に関する行事や学級指導、外部講師による学習等安全に関する意識と実践力を高める指導をする。 3 粘り強く挑戦し、継続するための手立てや指導を体育・道徳・学級指導等で行う。	○年間通して全校の朝マラソン、縄跳び、アクティビティム等、児童の創意工夫と意欲的な取組ができる体力向上や対外的な陸上競技でのよい成績に繋がった。ただ2極化も見られるのは課題である。 △年数回の「元気貯金」や課題である「早寝早起き」に特化した生活点検を実施したが、なかなか改善が見られない児童もあり、家庭の協力が課題である。 △避難訓練、交通安全指導等、外部講師も交え、多くの機会に安全指導したが、日常の行動の中では危険な行動もある。更に危険予知、実践化を図りたい。
		1 サポート委員会（特別支援教育部+教育相談）を中心にはじめた個別の支援計画・指導計画の下、保護者や関係機関とも連携し、定期的な懇談を持ちながら指導を進める。 2 特別支援学級と交流学級との学習や交流の機会を増やす。また地域の障害のある児童・障害者との交流の場を設定する。	○個別の指導計画に基づく指導と成果・課題をサポート委員会で評価し、手立てを検討して進めた。 ○関係諸機関との連携や助言を得ることができ、十分ではないが校内の支援体制の充実も図った。 △保護者との面談をもち連携を図ったが、就学指導に向けてはより丁寧に進める必要があった。 △交流学級と合同での授業は多くできたが、登校の少ない児童と全校の交流は更に進めていきたい。
		1 教育的ニーズや個の特性に応じた指導・支援を計画的・組織的に行う。 2 障害児者理解教育を進めめる。	○コミュニケーションタイムや新たな出前スピーチ、話合い活動の定着と多くの人と関わる活動の充実で、児童は誰とでも物おじせず話す力が高まった。 △話を聞く態度や相手に応じてその場で考えて話す力、自分の気持ちを素直に表現する力は課題である。 ○地域の人の話やインタビュー、体験活動を通して地域学習を深め、地域の良さや課題解決について考え、学習発表会や様々な方法で発信できた。 ○全へき研では、児童の主体性や伝える力を高める授業改善や研究を発表する場とともに、感想や意見を聞き、本校職員の自信や学びにも繋がった。
特色ある小学校づくり	1 へき地・小規模校及び地域の特性を生かし、児童の活躍と主体的な学びがある教育活動を進める。 2 積極的な情報発信や学校公開を進める。	1 伝え合うことを中心課題に据え、全校や異年齢の中や学園の園児・生徒、地域の方等、多様な場で様々な人と関わり、コミュニケーションを図る教育活動を全ての学年で行う。 2 生活科や総合的な学習の時間などで、家庭や地域と連携し、地域素材を生かした探究学習を充実する。 3 他のへき地・小規模校教育研究会と共に研究を進め、全国へき研分科会では、本校の研究成果を広く発信する。	ミュニケーション力を土台に誰とでも豊かに関わる活動を行った。また、基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の向上を目指す。 ・安全意識や規範意識の向上、体力づくり等、粘り強く最後まで取り組み、実践できる指導を充実させる。 ・小中一貫教育との連動、地域との連携した取組を充実させ、宇川への愛着の心を育む教育を推進する。
次年度に向けた改善の方向性			・今年度力を付けってきたコミュニケーション力を身に付ける活動を行った。また、基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の向上を目指す。 ・安全意識や規範意識の向上、体力づくり等、粘り強く最後まで取り組み、実践できる指導を充実させる。 ・小中一貫教育との連動、地域との連携した取組を充実させ、宇川への愛着の心を育む教育を推進する。

平成30年度学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立吉野小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)		
教育課程 学習指導	<p>1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営等を通じ、授業改善等を中心とした研修や学園の合宿等を実施する。</p> <p>2 小中一貫教育モデルカリキュラムを活用し地域の特色を生かした教育課程の編成を行う。</p> <p>3 保護者・地域、関係機関との連携を深め、保護者、地域から信頼される学校づくりを推進する。</p>	<p>○校内等の研修や学園の合宿等で、主体的・対話的で深い学びの授業改善が進みつつある。</p> <p>○学習や生徒指導等を中心に全ての教育活動の中で、組織的・協働的な動きができた。</p> <p>△主目的・対話的で深い学びのための授業改善等との連携を更に進め、保護者、地域、その他の関係機関との連携を図る。</p>	<p>1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を進め、豊かな人間性をはぐくむ「心の教育」を推進する。</p> <p>2 家庭・地域、関係機関との連携を深め、信頼される学校、特色ある学校づくりを通して、「生きる力」の育成に努める。</p> <p>3 家庭・地域、関係機関との連携を通し、「生きる力」の育成に努める。</p> <p>4 就学前から中学校卒業までを見通した弥栄学園小中一貫教育の推進を図る。</p>	<p>○生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を学園の取組とも連動させながら実践、推進することができた。</p> <p>○重点教科の国語科を中心とした「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりに向けた研修を充実させながら、指導力向上及び授業改善につなげ、全学年で実践することができた。</p> <p>○学園の取組とも連動させながら、校内の研究や取組を推進し、授業改善につなげることができた。</p> <p>○学校支援ボランティア等を活用した学習支援や組織的、継続的に実施したことにより、中間層や高学年課題の大きい児童の基礎的な学力の底上げにつながった。</p> <p>△意欲面や学習中の様子では、一人一人の1年間の成長や伸びが見られましたが、評価テストの結果につながりにくい。今後は、個別や学級の課題に応じたきめ細かい指導と家庭学習、ドリル学習を充実させ、全体の学力の向上を図る必要がある。</p> <p>△「主体的・対話的で深い学び」の授業改善を更に進め、学力向上につなげる。</p> <p>△学園の取組と連動させた校内の取組を更に充実させる。</p>	
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として					

生徒指導	1 生徒指導の3機能を生かした学級経営を行ふ。 2 人権意識や規範意識の高揚を図り、良好な人間関係づくりを行う。 3 いじめや不登校の未然防止に努める。	1 生徒指導の3機能を生かした学級経営を行い、自尊感情の醸成を目指す。 2 望ましい集団活動や多様な体験活動を通して、好ましい人間関係やコミュニケーション能力の育成を図る。 3 非行防止教室、法やルールに関する教育、情報モラル等の指導を通して、規範意識の高揚を図る。 4 常に児童の内面理解に努め、家庭との連携を密にする。児童、保護者との信頼関係を構築し、取組や対応等を丁寧にまた組織的に、そして、迅速に進める。	○生徒指導の3機能を生かした学級経営や異年齢集団活動を通じ、高学年のリーダー性の育成と良好な人間関係づくりを進めることができる。各学級や学校全体の安定につながった。 ○非行防止教室や法やルールに関する教育、様々な事象の教材化、家庭との連携等を通して、規範意識の高揚やいじめ等の未然防止、不登校〇につながっている。 △更に生徒指導の3機能を生かした学級経営を進め、児童一人一人の内面理解や状況把握に努め、家庭との連携を強化しながら、保護者、児童との信頼関係を深めていく。
	健康（体育）・安全	1 食育、健全な心と体づくりの取組を進めるとともに、年間を通して朝の体力づくり（マラソン、縄跳び）と毎学期の生活習慣づくりを進める。 2 校内安全点検を実施し、安全な施設管理を行うとともに、登下校の安全指導を徹底しPTAや地域のボランティア等と連携した取組を進める。	○食育を含めた給食指導が、計画的に実施できた。 ○年間的な体力づくりの取組を組織的に進め、基礎的な体力が身に付いた。 ○家庭と連携して毎学期生活点検を実施することでの、学期始めの生活習慣づくりにつながった。 ○ボランティアの方々と連携して安全な登下校ができる、事故〇につながっている。 △安全や健康を守る意識を高める。
	特別支援教育	特別な教育支援が必要な児童の個性や能力の伸長を図るために、保護者や関係機関との連携を図り、個別の課題に応じた支援や指導方法の改善、指導の充実を図る。	○家庭と連携し、障害のある児童や保護者のニーズに合わせた支援、取組が推進できた。 ○懇談を定期的に丁寧に行い、合理的な配慮を明確にした個別の指導や特性等に応じた就学指導、教育支援を進めることができた。 △さらに関わった学校、地域社会に実態に応じたきめ細かな指導の充実と家庭との連携を丁寧に、組織的、継続的に行う。
	特色ある学校づくり	家庭・地域との連携を深め、伝統や校風を継承しながら、地域の特色を生かした学校づくりを推進する。	○伝統や校風を大切にした取組を進め、特色ある学校づくりにつなげることができた。 ○学習や体験活動を充実させてするために、保護者や地域の人材等を活用することができた。 △地域社会に開かれた学校づくりにつなげる。
次年度に向けた改善的方向性	1 校内研修を充実させ、指導力を高め、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進と学力の向上を図る。 2 教育環境の充実を通じて、豊かでたくましい心をはぐくむ教育の充実を図る。 3 弥栄学園小中一貫教育の方針、年間計画に基づいた学園経営を行い、園小、小小、小中の一貫した取組の実践と評価を重ね、円滑な接続を図る。 4 家庭・地域との連携を深めて信頼関係を構築し、特色ある学校、地域社会に開かれた学校づくりを推進する。	1 受け継がれてきた伝統や校風を継承しながら、本校の特色である異年齢集団活動を更に充実させた取組を推進する。 2 保護者や地域の人材等を積極的に活用した教育活動の推進と体験活動の充実を図る。	1 受け継がれてきた伝統や校風を継承しながら、本校の特色である異年齢集団活動を更に充実させた取組を推進する。 2 保護者や地域の人材等を積極的に活用した教育活動の推進と体験活動の充実を図る。

平成30年度学校評価自評報告

学校名 [京丹後市立弥栄小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成 果 と 課 題 (自己評価)	
本市の小中一貫教育	「ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く児童生徒の育成」 ・知識と技を磨き、活用する子 ・他の良さを知り、共に伸びる子 ・心身をきたえ、何事もやりぬく子	○学習規律が定着し、落ち着いた学習環境が整った。 ○弥栄学園としての取組・交流が活発に行われ、小1プロプレム・中1ギヤップの解消に成果を上げた。 △学力充実加配の活用等進めたが、学力定着には課題が見られる。 △自尊感情がやや低く、学習意欲や積極性に課題がある。	1 学力向上プランに基づき、基礎基本の徹底・個に応じた指導(TT・少人数授業)・家庭学習充実等の取組を行う。 2 新学習指導要領実施に向けての研修、カリキュラム・マネジメントを進め。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた校内・学園研究授業を推進する。 3 小中一貫教育の取組や交流が学園課題・学校課題克服に向けた効果的なものとなるよう推進する。	○主体的・対話的で深い学びのある学習となるよう語科の研究を進め、授業力が高まった。(学園での授業研究、研修) ○複数体制での教科指導を多く取り入れ、個に応じた指導を進めるなどで落ち着いて学習に向かうことができるようにになった。 ○△学期に1回、弥栄学園で家庭学習がんばり週間を設け、日常的に自主学習ができる力を育んだ。習慣の定着には課題がある。 △算数の複数指導や習熟度別指導、量ドリル、補習を行い、基礎学力の定着を図っているが課題が見られる。	
教育課程 学習指導	1 学力実態と課題に応じて個に応じた指導の充実を努め、「確かな学力の定着を図る。 2 新学習指導要領の趣旨を行い、主体的・対話的で深い学習規律を充実させた授業改訂を行って、主に教科課題・学校課題克服に向けた効果的なものとなるよう推進する。 3 学園課題・学校課題克服に向けた小中一貫教育を推進する。	1 学力向上プランに基づき、基礎基本の徹底・個に応じた指導(TT・少人数授業)・家庭学習充実等の取組を行う。 2 新学習指導要領実施に向けての研修、カリキュラム・マネジメントを進め。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた校内・学園研究授業を推進する。 3 小中一貫教育の取組や交流が学園課題・学校課題克服に向けた効果的なものとなるよう推進する。	1 よりよい学級・学校生活づくりを進め、諸問題を解決しようとする学級活動・話し合い活動を充実させる。生徒指導の三機能が生きた学級経営を進め。2 学習規律の確立と意欲的に取り組める学習環境づくり。 3 非行防止教室の実施。学園連携・取組の充実。	○学校行事・教育活動を通して児童が異年齢・学級で繋がり、意欲的に学校生活を送ることができている。 ○児童会から出される月目標の実現に向けて学級で話し合い、取り組み、振り返ることを通じてよりよし学校生活の実現に向けて努力しようという姿勢が育っている。	
生徒指導	1 望ましい集団活動を通して、児童自らの課題を解決する意欲と実践力を高める。 2 約束やきまりを守つて生活できる力を付ける。 3 組織的にいじめの未然防止、早期発見・早期対応を進める。	1 望ましい集団活動を通して、児童自らの課題を解決する意欲と実践力を高める。 2 約束やきまりを守つて生活できる力を付ける。 3 組織的にいじめの未然防止、早期発見・早期対応を進める。	1 よりよい学級・学校生活づくりを進め、諸問題を解決する。児童の変化や危険信号を見逃さないよう日頃から児童の見守り、信頼関係の構築。いじめについての理解を深める取組の推進。児童の主体的な活動の推進。	○いじめの未然防止や不登校傾向等、課題となる状況に対しても教職員がチームとなって取り組み、早期発見・改善に導くことができた。 △自らの課題に気づき、解決していくという意欲や判断力には課題が見られる。	

健康（体育）・安全	<p>1 体を動かすこと樂しみ、遊びや運動の仕方を工夫する力を付ける。</p> <p>2 生活安全・交通安全・災害安全の指導を推進し、安全な生活を當む判断力と実践力を養う。</p> <p>3 情報モラル教育の推進</p>	<p>1児童の体力・運動能力実態を把握し、体育指導・体力向上の取組を充実させる。</p> <p>2児童自ら災害や事件・事故等から、安全を守るために能力を身に付ける安全教育を保護者・地域と連携して行う。(地域安全ネットワークとの連携した見守り・交通指導。交通教室)</p> <p>3低学年から発達段階に応じた情報モラルの指導を行い、情報機器の使用や管理に付いて家庭への啓発を行う。</p>	<p>○外遊びを奨励するとともに継続した体力づくりの取組を進め、駅伝競走大会でも好成績を収めた。</p> <p>○交通安全教育をPTA・地域と連携して行い、交通安全に対する意識を高めることができた。</p> <p>○△ゲームやスマホ等ネット環境の状況や危険についてPTAと連携した取組を進め、意識啓発ができるが、実態に応じた指導が必要である。</p> <p>△年間を通して児童の怪我が多く、安全教育を一層進める必要がある。</p>
開かれた学校づくり	<p>1 学校からの発信の充実</p> <p>2 地域学習、丹後学を通じて、児童が人とつながり、ふるさとを愛する心や感謝の心を育む。</p> <p>3 地域人材の活用</p>	<p>1 学校や学園の取組・様子を積極的に発信し、理解と協力を得る。(学校便り全戸配布・学園便り・ホームページ)</p> <p>2 丹後学をはじめ、広い校区の地域教材を積極的に取り入れ、地域から学ぶ。</p> <p>3 学校支援ボランティアを活用し、学習効果をあげるとともに地域とのつながりを深める。</p>	<p>○ホームページでタイムリーに発信するとともに、学校だよりや一貫教育だよりで学園や学校の様子を発信することができた。</p> <p>○学校支援ボランティアや地域の方に協力していただき、地域の方とふれあいながらたくさん地域について学ぶことができた。</p> <p>○学園・PTA・地域と連携したあいさつ運動で児童と地域とのつながりがより広がった。</p>
研修（教職員の資質向上）	<p>1 教職員一人ひとりが教育目標実現に向け、具体的な目標を持ち、主体的に教育活動の質を向上させる。</p> <p>2 新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業力・指導力を向上させる。</p>	<p>1 教職員人事評価制度や学校評価制度を活用し、教職員の主体的な実践を推進する。</p> <p>2 計画的・効果的な校内研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別の教科 道徳」指導方法・評価研究 ・外国语～教師の英語力の向上、専科授業から学ぶ ・国語科（重点研究）～単元構想・授業デザイン指導と評価の一体化 	<p>○教職員は自ら目標を設定し、授業力・指導力向上に努力をすることができた。また力量向上に教務部も指導支援を行った。</p> <p>○△計画的に校内研修を実施し、新学習指導要領の理解や指導力向上の取組を続けている。今後より実践的な研修を実施していく必要がある。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>1 楽しく学び・わかる授業づくり、学力向上の取組をさらに進め、質の高い学力を身に付けさせたい。</p> <p>2 自尊感情を高める取組を通し、児童に主体性・積極性を身に付けさせ、生き生きと学ぶ校風をつくりたい。</p> <p>3 自分の身は自分で守れるよう、しっかり考えた行動をとる等、危険予知能力を身に付けさせたい。</p> <p>4 教職員一同が、協働体制で教育活動ができると実感できる、組織体制を強化する。</p>		

(別紙様式1)

平成30年度学校評価自己申告報告

健康（体育）・安全	1 楽しく体を動かす習慣を身に付けさせるとともに、様々な取組を通じて我慢強く活動する心を育てる。	1 日常生活で当たり前のこととが当たり前にできる子どもに育てるために基盤的な生活習慣や日常的な学校生活、家庭学習等一日のルーティンの確立を目指して粘り強い声かけと保護者連携を進める。 2 交通ルールの順守や不審者への対応、日々の安全な生活等を進めるために、事例を教材化し情報を正しく判断できるようにする。	○学校内での基本的な生活習慣は時間を探ることや共に活動することなどよく進めことができた。家庭でもがんばり週間等の取組を通じて、家族と一緒に前向きに取り組んでいたいる家庭が多かった。 ○1年間地域の見守り活動や家庭での指導のおかげで登下校中や自転車による交通事故はなかった。
	研修（質質向上の取組）	1 新学習指導要領への対応としての「主体的・対話的で深い学び」が実現する授業改善に向け、具体的な子どもの姿とそれに向かう指導方法の研修を進める。 2 「話し合い活動を通して実践しながら研究を進める。で対話的な学び」について実践しながら研究を進める。	○久美浜学園の取組と運動させ、中3卒業時の姿を明確にし、そこに向けた指導のあり方を協議し学び合うことができた。そのことを目指しながら、校内でも「話し合い活動」をいかに授業の中で進め、豊かな考え方や表現につなげていくかの研究を進めることができた。 ○「話し合い活動」の指導系統表を作成することを通して、授業や指導のあり方を協議し互いに学び合うことができた。今後更に、深い学びにつながる授業展開を模索していく必要がある。 ○地域・保護者の協力によって実現した下校時間の変更により、教職員の準備・研修の時間確保が少し進んだ。
特色ある学校づくり	1 保幼小中10年間を見通し、中学校卒業時の生徒のあるべき姿を明確にしながら教育活動を推進する。2 地域に学び、地域とともに歩む学校にする。	1 久美浜学園3年次として、昨年のシステムや方向性を継続し内容充実を図る。特に、「理解と対話」のキーワードのもと、学園教職員で常に交流しながら、「中学校卒業時の生徒のあるべき姿」を検討し、本校の教育活動において常に意識していく。 2 教科や総合的な学習の時間等において、様々な地域の資源から学ぶ。また、様々な機会をとらえ地域の方々との交流や学びを大切にする。	○昨年度の取組をベースに「理解と対話」を深めることが最大の重点として取り組んだ。そのことにより、6年生での姿を目指す各学年での実践が進み、そのもどどなる6年生の姿を中学校の姿と繋づけて考えることができてきた。 △教科や総合的な学習の時間において地域の資源からたくさんのこと学到ぶことができた。一方で、たくさんの活動や取組の中で、準備や展開に係る時間確保が難しく、今後も行事の精選と合わせて、地域から学ぶ視点を大事にしていく。
次年度に向けた改善の方向性	1 久美浜学園全体として、10年間を見通した教育活動を更に進めるとともに、小中間の様々な教育課程上のギャップについて、具体的な取組を通して一歩ずつ改善していく。 2 本校の重点課題である学力向上に向けて、現在の重点研究や学力向上対策の取組を継続するとともに、その実現に向けた①肯定的な評価を基にした豊かで支え合う学級づくり、②より力を高めるための授業研究、③基礎基礎の徹底と「話し合い活動」を通した子どもたちの主体的な学び合いを進めていく。 3 落ち着いた子どもたちの様子と学校の取組全体の関連付け等を通して、教職員の準備や研修の時間確保を更に進め、そのことを通して授業実践や学級経営力の向上を進める。		

平成30年度学校評価自己評価報告

学校名「京丹後市立高龍小学校」

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成 — 子どもの実態や系統性を踏まえた指導 —		<p>○ 話し合い活動に意欲的に取り組むことができた。</p> <p>△ 「わかる授業」「できる授業」「わかる授業」を通じて国算の基礎・基本の力を身に付ける取組を進めることがある。</p> <p>△ 児童の実態を把握し、必要な支援を行い、一人一人の自己肯定感を高める必要がある。</p>	<p>「自分なりの考えを持つことができる児童の育成」</p> <p>1 自分の考えを表現することができます。 2 自分や友だちのよいところを見つけることができる。 3 いろんなことに挑戦することができる。</p>
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	1 「ねらいいが明確で「わかる!」 「できる」授業を進める。 全校体制で個に応じた指導・学力補充体制を確立し、基礎・基本の定着を図る。 3 身に付けた知識・技能を用いて活用する力を育成する授業を進める。	<p>1 研究推進部を中心に、「わかる授業」「できる授業」の算数科の研究授業・公開授業を行って、評議会を行なう。 2 学力補充・家庭学習等により、授業だけではなく、家庭と連携し、国算の基礎・基本の定着と個に応じた指導・支援を進める。</p> <p>3 主題的・対話的で深い学びの観点から授業改善を行なう。</p>	<p>○一人年1回の授業公開・研究授業に取り組み、児童が意欲的に参加できる導入を工夫し、児童が主体的・対話的で深い学びのイメージを京都府総合教育センター・市教委の出前授業、丹後局実践開発プロジェクト等の研修を通してイメージを持つことができた。</p> <p>○保護者アンケートで約93%が、児童にとって「わかる」「できる」授業を進めているとの回答が得られた。</p> <p>○意欲的に学習する場として、本年度初めて漢字検定58名(40%)が挑戦することができた。</p>
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	生徒指導	<p>1 教師が児童のよさを、また児童同士がお互いのよさを通じて、多様な異年齢集団活動の中で、計画的に伝えることで、明るく積極的な態度を促進させる。また、いじめについて、未然防止に重点を置き、規範意識の醸成を図る。</p> <p>2 「特別な教科 道徳」を中心にして人とのかかわりに教育を推進する。特に「主として人とのかかわりに関すること【親切、思いやり】を重視する。</p>	<p>○生徒指導部・特別活動部が連携して積極的な生徒指導を行なうことで、運動会・チームムービング大会等で、児童が相互によさを評価したり、全校集会等で評議会を行なうことができた。</p> <p>○学校便り・学級通信を通して、取組の様子やねらいを説明しながら、児童のよさを積極的に紹介することができた。</p> <p>○11月の人権月間に、「道徳」の授業を中心にして、児童に親切・思いやりについて考えるこができる。規範意識が高いことは言えないとみられた。心を育てるながら、規範意識を持てるよう、今後も取組を進めていきたい。</p>

健 康（体育）・安全	<p>1 全校的な体力にかかわる取組の充実により、体力向上を図つたり、基本的な生活習慣を身に付けさせたりして、学校を休まない強い体を作れる。</p> <p>2 困難なことにも粘り強く挑戦していることを育成する。</p>	<p>1 体力（特に持久力）向上を図つたり、PTAと連携して基本的に登校できることができる。</p> <p>2 個々の目標を達成する意欲を高める。</p> <p>特に「特別な教科 道徳」を中心にして明確にし、自身に開する事【希望、努力と強い意志】について指導し、粘り強く挑戦させる。</p>	<p>○体力づくりに取り組み、小学校駅伝競走大会では、五位の結果を得ることができた。</p> <p>○基本的な生活習慣の取組と合わせて、メディアコントロールについても関連して指導することができます。△生活習慣が身に付いていない児童に対して、今後も家庭と連携して取組を進めていきたい。</p>
特別支援教育	<p>1 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。</p>	<p>1 支援部会を中心に支援を必要とする児童を的確に把握し、具体的な支援・手立てを明確にしながら、担任と連携した指導を進めます。</p> <p>2 保護者との懇談を実施し、個々への合理的な配慮を明確にするとともに個別の指導計画・個別の教育支援計画を日々活用し、指導方法の工夫改善を図る。</p>	<p>○教育支援部を中心に、一人一人のニーズに応じた指導方法を検討し、保護者とともに、個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成することができます。また、S C・S SW・巡回教育相談を活用し、児童の指導に生かすことができます。</p> <p>○年間を通して保護者と懇談することができます。保護者の願いを取り入れた個別の指導計画・教育支援計画を作成したり、見直したりすることができます。</p>
開かれた学校づくり	<p>1 丁寧で分かりやすい双方の情報発信と積極的な学校公開を進めます。</p> <p>2 PTA・地域の関係機関等との取組により連携を強化する。</p>	<p>1 学校だよりや学級・学年通信、ホームページ等で、学校の様子を分かりやすく発信したり、保護者の意見も載せたりして、双方の発信を意識するとともに、積極的な学校公開を進めます。</p> <p>2 PTAとの積極的な連携を進めるとともに、地域と一緒に取組を計画的に実施する。</p>	<p>○6月に学校公開日を設定し、保護者、地域住民に広報することができた。また、授業参観・学校行事のアンケート結果のまとめを発行し、学校の方針の理解・保護者との連携が一層進んだ。</p> <p>○ホームページの来訪者が一日200～250あり、1月9日現在162,090のカウンタとなっている。</p> <p>○学習支援ボランティア、ゲストティーチャーを活用し、地域と一体となった学習を行なうことができた。</p> <p>久美浜の教育目標・目指す子ども像を基に学校経営を行ってきた。今後、より児童の実態と合わせた短期の課題設定・達成目標「自分なりの考え方を持った指導による児童の育成」の設定により、更に成果の見える取組を行なう。</p> <p>1 個々に応じた指導と一斉指導の充実を行なう。児童が安心して学習に参加できる環境を創り上げる。</p> <p>2 算数科の授業研究・公開授業等を行い、互いに授業を見合いながら、児童が主体的・対話的で深い学びができる。</p> <p>3 「できる」授業研究を進める。</p> <p>4 ドリルタイムの充実、放課後補習・学期末・学年末補習等に取り組み、指導の充実を行なう。</p> <p>5 児童に自分なりの考えを持つ表現できる力を身に付けさせるとともに、教科の基礎・基本を身に付けさせ、児童の語彙力を高める。</p> <p>6 活用する力の育成、学習意欲の向上を図るために、児童の量と質を高める。</p> <p>7 学校評価から教育実践を取り組むことを明らかにする。</p>
次年度に向けた改善の方向性			

平成 30 年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立かぶと山小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
久美浜学園教育目標 ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心をもち、根気強く努力する子どもとの育成		<ul style="list-style-type: none"> ○長期休業明けには、生活リズムを整える取組を行ない、体調不良による欠席が少なくなった。 ○配慮をする児童に対する手立てを丁寧に行うことができた。 <p>△学習規律については、徹底できていないところがある。言語活動を意識した取組と運動させながら取り組む必要がある。</p>	<p>(1) 居心地のよい学校 安心と安定のある学級経営の充実 望ましい人間関係を築く力の育成</p> <p>(2) 学力向上を図る学校 基礎基本の定着、思考・表現・判断力を充実させる学習活動の推進</p> <p>(3) 家庭・地域にひらかれ、信頼ある学校 家庭や地域と協働する学校づくりの推進</p>
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ○「主体的・対話的で深い学び」の実現を意識した授業改善を行う。 ○児童一人一人に基礎・基本を定着させ、学び合い活動を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「わかかる授業」を開拓し、学ぶ意欲を向上させる。 ・言語活動の充実を図るために、話を聞く・書く活動を取り入れながら自分への考え方を伝える、ペア学習、グループ学習を進めることで、理解を深めを実感させる。 ・単元構想をもち、どんな力をつけるのかを意識して授業を行う。 ・学習規律の確立を図る。 ・学習内容の習熟のため、家庭との連携を深め、家庭学習を充実させる。 	<p>○授業研修事後研修の充実により、主体的・対話的で深い学びについてどのように授業を構想するかを確認することができた。</p> <p>○児童同士の交流、教師との対話を通じて児童が理解を深められるように、何を理解させるのかを明らかにして指導した。</p> <p>△学習規律の面では、低学年の規律について不十分なところがある。最後までやりきらせることに課題が残った。</p>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○安心と安定感のある学級経営の充実を図る。 ○規範意識を高め、基本的生活習慣を確立する。 <p>本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の3機能を活かした学級経営の推進により、望ましい人間関係を育成する。 ・友達とのトラブルを解消する取組を通して、自己と他者の折り合いのつけ方を学ばせる。 ・日々の肯定的評価を積み重ね、お互いの良さや頑張りを認め合える集団づくりを進める。 ・児童理解に努め、個に応じた指導を行う。個と集団との関わりの中で、認め合い、成長できるようになる。 ・ルールやきまりの意味を理解させ、ルールを守ることを大切にする。 	<p>○肯定的な声掛けに心がけ、お互いの良さを見つめるようになれた。</p> <p>○学級全員で取り組むことの良さや、勝負だけではない取組過程での打ち合わせることにより、自分の成長や集団の成長について児童が実感できた。</p> <p>○自分の思いを伝え、相手の気持ちも理解しようとする中で折り合いをつける場面が増えてきた。</p> <p>△ルールやきまりを守っていないマイナスの方向に流れることがあり、守りきらせることができなかつた。</p>

<p>健康（体育）・安全育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○規則正しい生活ができる、健康で安全な生活を送ることができる児童を育成する。 ・朝の体力づくり（マラソン、縄跳び）を計画的に実施する。 ・家庭と連携しながら、基本的な生活習慣の確立に向けた取組を進める。 ・登下校の安全に対し、安全ボランティアの方々と連携した取組を進める。（付添い登下校、にこにこカーによる見守り、毎月の登校指導等） 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝マラソン、朝縄跳びを実施し、取組期間中は一生懸命取り組むことができた。 ○長期休業明けに生活リズムを整える取組を行い、体調不良による欠席が少なくなった。 △登下校の安全について、ボランティアの方々と連携してきたが、安全という点では、歩き方など課題として残った。
<p>特別支援教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ○配慮を要する児童を中心に、すべての児童に対して合理的な配慮を行ふ。 ・特に支援学級在籍児童にとどまらず、各通常学級に在籍する配慮を必要とする児童への支援の在り方にについて研修を深める。 ・スクールカウンセラーや市臨床心理士と連携し、配慮を要する児童への適切・有効な支援の仕方を探る。また、必要に応じて保護者への啓発を進めいく。 ・個人に応じた指導について、保護者と方向性を確認しながら個別の教育支援計画を作成し、指導に活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○配慮を要する児童の交流を丁寧に行い、教職員間で児童理解を進めることができた。 ○スクールカウンセラー、学び生活アドバイザー、市の臨床心理士と連携し、児童理解や対応について助言を受け適切な支援が行えた。 ○「丹後の連携はぐくみ校」の事業で、京都教育大学の相澤教授の講義を受け、障害特性の理解、支援の仕方の理解につながった。 △児童の教育支援計画、指導計画を作成することはできたが、計画の通りの実践ではない部分もあつた。来年度に向けて整理する。
<p>開かれた学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校や児童の様子等を積極的に発信し、教育活動の向上と信頼される学校づくりにつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業参観や行事への参加、家庭訪問や電話連絡等、保護者との連携を密にする。 ・学校・学級などによりやホームページを活用し、学校や児童の様子等、積極的に情報発信し理解を得る。 ・年度初めに本年度の経営方針等を示し、年度末にそれについての評価を得るというサイクルで進める。学校評価や保護者アンケートを活用し、改善に活かす。 ・地域人材や学校支援ボランティアを活用してつながりを広げる。
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学力向上に向けた研究活動の活性化、「深い学び」につながる授業改善を行う。 ・安定した学級経営の実現に向け、生徒指導の三機能を踏まえた指導を継続する。 ・特別活動を中心として児童の豊かな人間関係づくりと日々の授業づくりを関連させる。 ・個に応じた児童への支援の在り方を進めていくため、実態の把握と指導の方向性を明確にする。